



Zoner PhotoStudio 7

The Magic of Digital Photography

ユーザ ガイド

製品概要

デジタル写真編集ソフトウェア“Zoner Photo Studio 7”をお選びいただきありがとうございます。このソフトウェアは、前バージョン Zoner Photo Studio 6 の優れた機能をそのまま引き継ぎ、さらにさまざまな新機能が追加されたことにより、今までにない快適で高度な写真編集環境を実現できるようになりました。

Zoner Photo Studio 7 は、初心者からプロの写真家まで、デジタル写真を扱う幅広いユーザにとって、かけがえのないツールとなることを自負しております。

感動と創造性を手元に！

最低システム要件

OS:MS Internet Explorer 4.01 またはそれ以降がインストールされた Windows 98/ME/2000/XP

プロセッサ:Intel 互換の 300 MHz 以上のプロセッサ

メモリ:64 MB RAM

HDD:80 MB の空き容量

解像度:800 × 600 High Color

Zoner Photo Studio で作業する写真のデータ サイズによっては、64 MB 以上の RAM が必要になることがあります。また、処理する写真の数が多い場合は、写真操作の機能が充実している Windows 2000 または XP を使用することをお勧めします。

プログラムのインストール

プログラムをインストールする際は、コンピュータのハードウェアが最低システム要件を満たしていることを確認してください。インストール処理をスムーズに進めるためにも、インストール時にはハードディスクに最低 150 MB の空き容量があることが望ましいです。Windows 2000 または XP にインストールする場合は、ソフトウェアのインストール時にシステムの管理者権限がある必要があります。

Zoner Photo Studio のメディア アーカイブが正常に動作するためには、コンピュータに ADO および JET (MDAC 2.5) ライブラリがインストールされている必要があります。これらのライブラリは、Windows Me/2000/XP オペレーティング システムには標準でインストールされていますが、Windows 98 を使用する場合は、各自でインストールする必要が

あります。

Zoner Media Explorer 6 (ZME 6) PROFESSIONAL を使用しており、コンピュータ上に CD/DVD の焼き込みドライブが搭載されている場合、ZME 6 で焼き込み機能を正常に動作させるためのドライバが必要になることがあります。

これらのドライバは、インストール用の CD または Zoner Web サイトのサポート セクション (<http://www.zoner.com/support/>) で入手可能です。

インストール後に再起動を促すメッセージが表示されたらそれに従うことをお勧めします。特に、CD、DVD、ビデオ CD への焼き込み機能を利用する場合は、必ず再起動してください。

主な機能

このセクションでは、Zoner Photo Studio 7 の主な機能を簡潔に紹介します。Zoner Photo Studio 7 からの新機能は、説明の後にアスタリスク (*) が付いています。

環境

- 完全にスケーラブルなグラフィック環境 (スキンをサポート)
- 複数のブラウザ ウィンドウとエディタを同時に開ける
- ブラウザ ウィンドウとエディタのツールバーをカスタマイズ可能
- プレビュー ウィンドウの [情報] モードに表示する項目を指定可能
- 登録された種類のイメージ ファイルにそれぞれアイコンが用意されているため見分けやすい
- モニタの補正補助: テスト イメージと指示
- プログラム全体を通して保存可能/読み込み可能なプリセットが用意されている
- プレビュー ペインのプレビューの下に拡張情報を表示可能*
- カスタム ツールチップ*
- 右クリック メニューから別のアプリケーションを起動可能*
- 高度なファイル管理機能、フォルダの表示履歴*、ファイル処理に関する新しいインターフェイス (進捗バー、速度インジケータ、上書き時の警告メッセージ)*、エディタまたはスライドショーでのコピー/名前変更/移動*
- JPEG および TIFF* ファイルに保存された EXIF プレビューを表示可能

イメージの取り込み

- USB ストレージをサポートする接続デバイスからデジタル写真をダウンロード可能、新しいイメージだけをダウンロード可能、ダウンロード中に EXIF データにテキスト (作成者と著作権の情報) を自動的に追加可能、イメージのダウンロード日または撮影日に基づいて自動的にフォルダを作成可能
- EXIF データを保持したまま Canon カメラから直接ダウンロード可能*
- Canon RAW (CRW) 処理*
- TWAIN スキャナを使用してイメージをスキャン可能
- Windows クリップボードからイメージをインポート可能
- 高度なスクリーンショット ツールからイメージをインポート可能
- Web サイトからイメージを直接ダウンロード可能

エディタでのイメージの操作

- 縦横比および縦横サイズを維持したまま切り取り可能 (写真で通常使用される縦横比のプリセットを含む)、指定の比率で切り取れる最大領域をすばやく選択可能、縦方向/横方向の自動フィット*
- 選択ツール: 長方形、投げ縄*、多角形投げ縄*、魔法の杖 (自動選択)*
- 元に戻す/やり直しコマンド (複数のステップに対応)
- 水平/垂直レベルを補正可能 (斜めに傾いた写真を修正可能)
- 共線性を補正可能
- 遠近感を補正可能*

- ・ 赤目除去（スポイト形式の色選択）
- ・ レタッチ用クローン スタンプ
- ・ デフォルトのズーム レベル（1:1 またはウィンドウに合わせる）*

イメージの操作に関する基本コマンド

- ・ 高度なアルゴリズム（Lanczos、Mitchell など）を利用したサイズ変更、および鮮明さ補正
- ・ 90° 回転、0.1° 刻みの回転、EXIF 回転データに合わせた回転
- ・ イメージの操作中（ブラウザで参照しているとき、エクスポートするとき、など）に EXIF 方向マーカに基づいてイメージを自動回転可能
- ・ イメージのキャンバスとその内外の枠の設定
- ・ 水平/垂直方向への反転
- ・ ファイルのバッチ変換

イメージの拡張

- ・ イメージの Red/Green/Blue (RGB) 要素のレベルの調整*、明るさとコントラストの補正（自動補正を含む）、ガンマの調整
- ・ ホワイト バランスの自動調整、色相、彩度、および明度の調整 — “通常”、“光のみ”、または“影のみ”の調整が可能
- ・ 色温度の調整（白を設定することも、スポイトを使用してグレー色を設定することも可能）
- ・ 露出の自動補正、ホワイト バランスの自動補正、高コントラスト/低コントラストの写真および露出過度/露出不足の写真の改善（手動で改善する場合は、強度レベルとモードを指定可能）
- ・ イメージのヒストグラムのバランス調整、RGB 要素に基づいたバランス調整、暗い領域の改善 — “すべて”、“光”、または“影”への適用が可能
- ・ 鮮明さとぼかしの調整、アンシャープマスク
- ・ ヒストグラム表示とブローアウト表示
- ・ 影の強調*

イメージの欠陥修正

- ・ ノイズの除去
- ・ ビデオから取り込まれたイメージのインターレース解除
- ・ 樽型/糸巻型歪曲収差の修正
- ・ アンチビネット
- ・ 色収差の除去

イメージの効果

- ・ テキストのオーバーレイ（イメージ内のテキスト） — 通常のテキストを追加することも、EXIF データに基づいた変数テキストを追加することも可能
- ・ イメージのオーバーレイ
- ・ チャンネルの混合*
- ・ 非彩色とグレースケール — 各種モードを切り替えることも、カスタマイズすることも可能
- ・ 爆発、油絵、波、鉛筆描き、ピクセル化
- ・ 浮き彫り、輪郭検出、古い写真、ネガ
- ・ インベロープと 3D ボタン
- ・ フェード枠とソフト シャドウ

写真の整理

- ・ 新しいメタデータ フィールド: 個人レート（品質レート）*
- ・ JPEG および TIFF ファイルのデジタル証明書*
- ・ EXIF 規格（バージョン 2.2 まで）および IPTC（バックアップと復元、すべてのマーカを含む）を完全サポート
- ・ EXIF 技術情報（撮影日、ISO、露出長、フォーカス）を編集可能

- ・オフラインでのメディア アーカイブ (EXIF 情報に基づいたイメージの並べ替え機能と検索機能を含む)
- ・主要な RAW フォーマット (Canon、Olympus、Nikon、Minolta) のイメージのプレビューと EXIF 情報をサポート
- ・ Paint Shop Pro 6/7/8 形式をサポート
- ・写真を“アルバム”(ショートカットを含んだ Windows フォルダ) に簡単に分類可能
- ・ Canon や Olympus など、主要なカメラ製造元に固有の EXIF データ形式 (メーカー ノート) をサポート
- ・説明をインポート可能/エクスポート可能、ACD™ Systems ACDSSee™ 5 から情報をインポート可能
- ・ファイル リスト
- ・ファイルの作成日、更新日を EXIF 撮影日と一致するように設定可能
- ・カテゴリ (ツリー構造) 別のキーワード*、EXIF ノート、オーディオ ノート — イメージ自体からキーワード リストをインポート可能、ブラウザ ウィンドウでファイルにキーワードを直接ドラッグ アンド ドロップ可能
- ・メディアの検索、フィルタ、並べ替え、選択*
- ・従来の Windows ファイル操作
- ・ファイルのバッチ名前変更とバッチ変換
- ・色管理、色プロファイルの操作、ICC プロファイルのバッチ割り当て
- ・変数テキストをサポート — 新しい文字とフォーマット設定オプションの追加*

印刷とエクスポート

- ・カレンダー*やサムネイル シート*の動的生成、指定の用紙サイズを最大限に生かした“用紙セーバ”印刷
- ・エディタでの高度な印刷 (フル ページ、DPI を基準、カスタム サイズ)*
- ・写真を (無料配布の CD ビューアを添えて) CD/DVD に書き込み可能、またビデオ CD に書き込み可能
- ・色管理、EXIF Print、Print Image Matching (PIM) をサポート
- ・テンプレート ベースの印刷とエクスポート (約 250 のテンプレート)
- ・印刷出力ページを完全に編集可能
- ・印刷出力を保存可能
- ・アルバムを PDF にエクスポート可能
- ・プログラム内から簡単に FTP にアクセス可能 (たとえば、Web 公開用)
- ・Web ギャラリー生成ウィザード (保存可能/読み込み可能なプリセット、ページ生成時の進捗バー)
- ・フォルダまたはサブフォルダに基づいた、基本 (設定なし) スライドショーと高度なスライドショー — 画面上でのテンプレートの回転、イメージ切り替え時の効果*、ヒストグラム表示、ブローアウト表示、スライドショーの設定を保存可能*
- ・写真を電子メールで送信可能 (サイズ変更、JPEG 変換、ZIP 変換、サイズ警告のオプションを含む)
- ・イメージを Windows デスクトップの壁紙に設定可能

Classic、Home、Professional

Zoner Photo Studio には、機能性の異なる Classic、Home、Professional の 3 種類のバージョンが用意されています。

- ・ Classic—初心者ユーザ向け
- ・ Home—デジタル写真に関連する作業を毎日行うユーザ向け
- ・ Professional—プロのデジタル写真家、および友人や同僚と写真データを共有することを考えている高度なユーザ向け

Professional バージョンには機能制限は設けられていません。

Home バージョンでは、Web サイトからのイメージのダウンロード、Canon RAW イメージの取り込み、投げ縄/多角形投げ縄/魔法の杖 (自動選択) ツール、レベル調整 (ヒストグラム編集)、チャンネルの混合、PDF へのエクスポート、Web 公開、FTP 転送、CD/DVD およびビデオ CD への書き込み、色管理/色プロファイル、デジタル証明書

(Home バージョンでは検証サポートのみ) に関する各機能が使用できません。

Classic バージョンでは、Home バージョンの制限事項に加え、EXIF 情報のバックアップ/更新/削除、複数のメディアのアーカイブ (Classic バージョンでは 1 つのアーカイブのみ可能)、バッチ名前変更/バッチ変換、エディタでの単一イメージの印刷、カレンダーの生成、サムネイル シートの動的生成、用紙サーバ印刷、電子メール送信、別のアプリケーションの右クリック メニューからの起動、影の強調、アンシャープ マスク、クリップボードからの取り込み、スクリーンショット、露出自動補正、イメージの複合編集、色収差/樽型/糸巻型歪曲収差/遠近感のずれ/ビネット/インターレースの補正、エンベロープ、テキスト/イメージのオーバーレイ、古い写真効果、フェード枠、グレースケース変換に関する各機能が使用できません。

プログラムの環境

Zoner Photo Studio では、メイン ウィンドウからプログラム全体の環境を制御・設定できるようになっています。メイン ウィンドウのタイトル バーには、左右にいくつかのボタンが配置されています。



左側のボタンでは、4 種類のウィンドウ (①ナビゲータ ウィンドウ、②プレビュー ウィンドウ、③ブラウザ ウィンドウ、④エディタ ウィンドウ) の表示と非表示を切り替えることができます。なお、プレビュー ウィンドウで一度に表示できる写真は 1 枚だけです。右側のボタンでは、⑤作業領域の制御、⑥各種ユーザ設定、⑦ヘルプの表示が可能です。これらのボタンをクリックすると、対応するメニューが表示されます。

メニュー内の機能の詳細については、以下の説明を参照してください。なお、これらのボタンの表示形式は、適用しているスキンによって変わります。スキンは、[ユーザ設定]、[一般] の順にクリックして、[スキン] オプションで変更することができます。

ウィンドウの管理

ウィンドウの固定と解除

デフォルトの設定では、すべてのウィンドウの位置がプログラムのメイン ウィンドウ内で固定されています。ウィンドウの位置を変更するには、タイトル バーをクリックして、目的の位置にドラッグするだけです。タイトル バーの上向き 2 重矢印ボタン (Undock) をクリックすると、ウィンドウの固定が解除され、任意の位置に移動できるようになります (フローティング ウィンドウ)。フローティング ウィンドウは、独立した Windows アプリケーションのように動作し、Windows のタスクバーにも、Alt+Tab を押したときのプログラム切り替えウィンドウにも表示されます。また、タイトル バーの右クリック メニューで [常にトップに] オプションを適用すると、そのウィンドウが常に全ウィンドウの前面に表示されるようになります。

ウィンドウの縮小

プログラムのメイン ウィンドウ、ブラウザ ウィンドウ、またはエディタ ウィンドウを縮小すると、対応するメニューやアイコン

(メイン ウィンドウの場合) もそれぞれ 1 つの簡易メニューまたはアイコンにまとめられます。

作業領域

上記のように、Zoner Photo Studio 7 の各ウィンドウの配置は、デフォルトの配置（左側にナビゲータ ウィンドウとプレビュー ウィンドウ、右側にブラウザ ウィンドウ）以外にも、自由にカスタマイズすることができます。これらの配置設定を“作業領域”と呼びます。Alt+0 ~ Alt+9 のショートカット キー、またはタイトル バーの [作業領域] ボタンを使用すれば、使用する作業領域を切り替えることができます。

カスタマイズした作業領域を保存しておくには、[作業領域] ボタンの [作業領域の保存] コマンドを使用します。作業領域の設定で保存できるのはウィンドウの配置だけです。現在のフォルダ設定など、その他の情報は保存されません。その代わりとして、使用頻度の高いフォルダに簡単にアクセスできるように [お気に入り] ボタンが用意されています。このボタンは、ブラウザ ウィンドウのツールバーに配置されています。

ナビゲータ ウィンドウ

ナビゲータ ウィンドウは、7 種類のモードで表示することができます。モードを切り替えるには、タイトル バーのメニューを使用します。ナビゲータ ウィンドウで選択したフォルダの内容は、ブラウザ ウィンドウに表示されます。

- **ツリー**—コンピュータ上のフォルダ構造全体が表示されます。
- **画像**—イメージの保存先として指定したフォルダが直接表示されます。通常は、Windows の [マイ ピクチャ] フォルダ ([マイ ドキュメント] フォルダのサブフォルダ) になります。このフォルダは、プログラムを初めて実行したとき、または [設定]、[ユーザ設定]、[フォルダ] の順にクリックして [画像] ボックスで変更することができます。
- **ZPS フォルダ**—Zoner Photo Studio 専用の 4 つのフォルダ (アルバム、CD 編集、メディア アーカイブ、検索結果) の親フォルダが表示されます。このフォルダは、インストール時に [マイ ドキュメント] フォルダの直下に設定されますが、[設定]、[ユーザ設定]、[フォルダ] の順にクリックして [ZMS フォルダ] ボックスで変更することもできます。
- **アルバム**—[アルバム] フォルダが表示されます。Zoner Photo Studio 7 では、従来の Windows ショートカットを含むフォルダのことを“アルバム”と呼びます。したがって、Zoner Photo Studio 7 を使用していない場合でもアルバムでの作業は可能です。[アルバム] フォルダおよびその他の特別なフォルダの場所は、[ユーザ設定] ダイアログ ボックスの [フォルダ] カテゴリで定義することができます。
- **CD 編集**—書き込み用の編集ファイルを含むフォルダが表示されます。ナビゲータでこのフォルダを表示すると、ブラウザ ウィンドウのファイル リストの下部に書き込みに関連するボタンが表示されます。[書込み] ボタンをクリックすると、現在の編集ファイルの書き込み処理が開始します。この処理の詳細については、後述の説明を参照してください。[サイズを再計算] ボタンをクリックすると、CD 上のファイルのサイズが再計算されます。
- **メディア アーカイブ**—メディアのインデックスを含むフォルダが表示されます。“メディア”とは CD または DVD のことです。CD または DVD の“インデックス付け”とは、メディアからイメージのサムネイルやその他の写真情報をハード ドライブ上に格納することです。メディア アーカイブでの作業の詳細については、後述の「メディア アーカイブ」を参照してください。
- **検索結果**—このフォルダには、検索結果が Windows ショートカットの形式で保存されます。なお、イメージを検索するには、ブラウザ ウィンドウの [管理] メニューの [検索] コマンドを使用します。

ナビゲータ ウィンドウでは、ドラッグ アンド ドロップでの作業が可能になっています。フォルダ ツリーの一部がナビゲータ ウィンドウに収まっていない場合、ドラッグ アンド ドロップ中に、マウス ポインタをウィンドウの目的の枠に置くと自動的にスクロールします。また、マウス ポインタをプラス記号 (そのフォルダがサブフォルダを含むことを意味する) の上に置くとそのフォルダが自動的に展開されます。

プレビュー ウィンドウ

プレビュー ウィンドウでは、ブラウザ ウィンドウで選択した写真に関する情報をすばやく見ることができます。タイトル バ

上のメニューを使用すれば、このウィンドウのモードを以下のいずれかに切り替えることができます。

- **プレビュー**—デフォルトのモードです。ブラウザ ウィンドウで選択（ハイライト）したイメージのプレビューが表示されます。このウィンドウのコンテキスト メニューからは、ブローアウトおよびヒストグラムを表示することができます。
- **情報**—[情報] モードでは、EXIF データが表示されます。各項目を選択して Ctrl+C キーを押すと、選択した項目をクリップボードにコピーすることができます。この機能およびその他の機能は、ウィンドウを右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューにも用意されています。また、コンテキスト メニューからは、選択した 1 つまたは複数の項目を非表示にすることもできます。
- **ヒストグラム**—[ヒストグラム] モードでは、選択したイメージのヒストグラムが表示されます。このモードは、TrueColor (24 または 32 ビット) イメージにのみ対応しています。ヒストグラムとは、各種レベルの明るさを持つイメージ内のピクセル数のグラフです。横軸は、指定した色要素の影、つまり全体的な明るさのレベル (256 種類) を示します。縦軸は、イメージ内の各種レベルの数を示します。左側 (暗い色調) に高い値を持ち、右側に低い値を持つ写真の場合、露出不足であった可能性があります。一方、右側に高い値を持つ写真の場合、露出過度であった可能性があります。一般的に、ヒストグラムの全範囲において均等的な値を持つ写真が理想的です。

ブラウザ ウィンドウ

Zoner Photo Studio 7 でイメージの操作を行うための機能のほとんどがブラウザ ウィンドウにあります。各機能は、イメージの取得、編集、管理、および公開の 4 種類のメニュー カテゴリにグループ分けされています。これらのメニュー内の各機能の詳細については、後述のセクションを参照してください。

ブラウザ ウィンドウのメイン ペインには、ナビゲータ ウィンドウで選択したフォルダ内のイメージが表示されます。サムネイルの表示形式を切り替えるには、[設定] ボタン (歯車形のボタン)、[ユーザ設定] の順にクリックして、[ユーザ設定] ダイアログ ボックスの [サムネイル表示方法] カテゴリの [サムネイル スタイル] オプションを使用します。ブラウザ ウィンドウの表示モードを変更するには、ツールバーの [表示モード] ボタン、またはブラウザ ウィンドウの空白の領域を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューを使用します。Zoner Photo Studio を初めて起動したときは、表示モードは [サムネイル] になっています。残りのモードは、[大きなアイコン]、[小さなアイコン]、[リスト]、[詳細] の 4 つで、Windows エクスプローラのモードと同じように動作します。他にも、Zoner Photo Studio 7 のブラウザ ウィンドウには、Windows エクスプローラでおなじみの機能の多くが備わっています。たとえば、フォルダの表示履歴を記憶してフォルダ間を戻ったり進んだりすることも、お気に入りフォルダを作成することもできます。また、ドラッグ アンド ドロップでファイルを移動したりコピーしたりすることもできます。

新しいブラウザ ウィンドウを開くには、Zoner Photo Studio のメイン ウィンドウの [ブラウザ] アイコンを使用します。複数のブラウザ ウィンドウを開いている場合でも、このアイコンを使用して、ウィンドウ間を切り替えることができます。現在アクティブなブラウザ ウィンドウには、名前の横に黒丸 (●) が付きます。ナビゲータ ウィンドウのフォルダ ツリーの表示は、ブラウザ ウィンドウを基準に切り替わります。つまり、アクティブなブラウザ ウィンドウで表示しているフォルダがナビゲータ ウィンドウでハイライトされます。

[サムネイル] モード

イメージ フォルダの表示速度を向上させるために、Zoner Photo Studio ではイメージ自体 (たとえば、EXIF) の中に格納されたサムネイルを使用します。ただし、これらのデータが利用可能で、かつ [ユーザ設定] ダイアログ ボックスで該当するチェック ボックスがオンになっている場合に限りです。それ以外の場合は、イメージを最初に表示したときにそのイメージのサムネイルを生成し、そのサムネイルを特別なキャッシュ ファイルに格納します。それ以降、サムネイルはキャッシュ ファイルからすばやく読み込まれるようになります。

[ユーザ設定] ダイアログ ボックスの [サムネイル] カテゴリでは、このキャッシュ ファイルの最大サイズやパスを設定することができます。[サムネイルに JPEG 圧縮を使用する] と [品質] オプションを使用すれば、キャッシュ ファイルによって使用されるディスク スペースの量を削減することができます。ただし、この場合、ブラウザ ウィンドウでの処理速度が少し遅くなります。また、EXIF プレビュー (サムネイル) の読み込み機能をオフにすることもできます。EXIF プレビューの更新情報を保存できないプログラムで編集したイメージを扱う場合にこの機能をオフにすると特に有効です。もちろん、Zoner Photo Studio でも、イメージを編集するたびに新しい EXIF サムネイルを生成することができます。

EXIF サムネイルのないイメージ、または EXIF サムネイルが古いイメージに EXIF プレビューを追加するには、[EXIF プレビューの追加] コマンド ([管理] → [情報管理]) を使用します。ただし、このコマンドは、JPEG イメージ以外のイメージには使用できません。

サムネイルの中には、特定のイメージ属性が存在することを示す小さいアイコンが付いているものがあります。たとえば、EXIF 写真情報、イメージ情報（名前、作成者、説明、など）、キーワード、オーディオ ノート、および EXIF バックアップが該当します。これらのアイコンをダブルクリックすると、対応する種類の情報を示すダイアログ ボックスが表示されます。ただし、EXIF バックアップの場合は、バックアップから EXIF 情報を復元するためのオプションが表示されます。

各サムネイルの下には、Windows ショートカットのアイコン、およびオンライン/オフライン インジケータが表示されます。ショートカットのアイコンは、実際のファイルの代わりにショートカットで作業していることを示します。Windows ショートカットの詳細については、Windows 関連の資料またはインターネットを参照してください。オンライン/オフライン インジケータは、メディア アーカイブを表示している場合にのみ表示されます。このインジケータは、特定のファイルが現在利用可能かどうかを示します。これらのアイコンの見た目は、適用しているスキンによって異なります。

サムネイルの右上には、Windows で特定のイメージのファイル形式と関連付けられたプログラムのアイコンが表示されます。このアイコンをダブルクリックすると、イメージがその関連付けられたプログラムで開きます。プログラムのパフォーマンスを向上させるために、このアイコンを非表示に設定することもできます。その場合、[ユーザ設定] ダイアログ ボックスの [サムネイル] カテゴリで該当するチェック ボックスをオフにします。

[詳細] モード

[詳細] モードでは、Windows エクスプローラの [詳細] モードのように、ファイルのテキスト情報が表形式で表示されます。表のカラム ヘッダは、イメージの各プロパティ名（大きさ、ファイル形式、など）を示します。カラム ヘッダを右クリックすると、カラムを追加または削除するためのコンテキスト メニューが表示されます。カラム ヘッダをクリックして左右にドラッグすると、カラムの位置を変更することができます。カラム ヘッダをクリックすると、対応するプロパティを基準に表が並べ替えられます。もう一度クリックすると、今度は逆方向に並べ替えられます。並べ替えの方向は、カラム ヘッダのプロパティ名の横に矢印で示されます。

デフォルトでは、この表の行の背景色は一般的なファイルの種類（ベクタ、ビットマップ、など）別に色分けして表示されます。色分けを解除するには、[ユーザ設定] ダイアログ ボックスの [ビットマップ/ベクタ/ビデオ/サウンドの区別をハイライトする] チェック ボックスをオフにします。表の各行にマウス カーソルを置くと、該当するファイルのサムネイルがポップアップとして表示されます。

並べ替え

フォルダ内のファイルは、そのプロパティ（名前、名前（数字）、ファイル サイズ、拡張子、種類、最終更新日）を基準にして、並べ替えることができます。また、独自の並べ替え順序を作成することもできます。並べ替え基準のプロパティを変更するには、ブラウザ ウィンドウのコンテキスト メニューまたは [管理] メニューの [並べ替え] コマンドを使用します。

[カスタム] を使用すると、フォルダ内のイメージの順序を独自に設定することができます。最初に [カスタム] を選択すると、その時点の並べ替え順序が保持されます。そこで、各イメージをドラッグ アンド ドロップして目的の位置に移動します（ドラッグしたときに表示される赤線の位置にイメージが挿入されます）。独自の並べ替え順序をリセットするには、コンテキスト メニューの [カスタム ソートのリセット] コマンドを使用します。イメージをドラッグしたときにウィンドウの端にマウス カーソルを置くと、自動的にその方向にスクロールします。

メディア アーカイブでは、インデックス付きのプロパティを使用してイメージを並べ替えることができます。なお、メディア アーカイブ以外でこの方法を使用することはできません（インデックスのないファイルに対しては、プログラムの速度を極端に低下させる原因となります）。これには、露出、焦点距離、フラッシュ、デジタル ズームなどが該当します。

キーワード パネル

キーワード パネルを使用すると、キーワードを管理して、選択したイメージに目的のキーワードを簡単に割り当てることができます。

キーワード パネルを表示するには、[管理] メニューの [キーワード パネル] をクリックするか、ブラウザ ウィンドウの

ツールバーで [キーワード パネル] ボタンをクリックします。キーワード パネルでは、キーワードを追加または削除して、カテゴリ別に簡単に整理することができます。また、必要であれば、キーワードをカテゴリに変換（キーワードのコンテキスト メニューで [カテゴリに変換] をクリック）して、より使い勝手のよいツリー構造を作成することもできます。

キーワード関連の操作はすべてキーワード パネルを右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューから行います。複数のキーワードを同時に選択するには、Ctrl キーを押しながら選択します。キーワードを 1 つのイメージに割り当てるには、対象のイメージ上にドラッグ アンド ドロップします。キーワードを複数のイメージに割り当てるには、コンテキスト メニューの [選択したイメージへのキーワード割り当て] コマンドを使用します。

表示フィルタ

このフィルタは、フォルダまたはアルバムを参照するときに、その中に表示するファイルを絞り込むためのものです。ファイル名またはその一部、作成日、最終更新日、サイズで絞り込むことも、タイトル、作成者、説明の EXIF 情報、またはキーワードで絞り込むこともできます。表示フィルタを設定するには、[管理] メニューの [フィルタ] コマンドを使用します。

ステータス バー情報

ブラウザ ウィンドウの一番下にはステータス バーが配置されています。このステータス バーの左側には、現在選択しているイメージに関する情報が表示されます。この情報を変更するには、[ユーザ設定] ダイアログ ボックス ([設定] → [ユーザ設定]) の [一般] カテゴリで、[ステータス バー情報] ボックスに変数テキストを入力します（ここでの設定は、エディタのステータス バーにも適用されます）。変数テキストの詳細については、後述の「変数テキスト」を参照してください。一方、ステータス バーの右側には、現在のフォルダに含まれるオブジェクトの合計数と、選択しているファイルの合計数が表示されます。

表示するファイルの種類

デフォルトでは、サポートしているファイル形式であれば、すべてのイメージ ファイル、音声ファイル、およびビデオ ファイルが表示されるようになっています。サポートしていないファイル形式も含め、その他すべてのファイルを表示させたり、特定の種類のファイルだけを表示させたりするには、[ユーザ設定] ダイアログ ボックスの [表示] カテゴリのオプションを使用します。また、[ブラウザでフォルダを表示する] オプションを使用すれば、イメージのサムネイルのほかにも、フォルダのアイコンが表示されるようになります。

エディタ

エディタは、個々のイメージを表示または編集するときに使用します。エディタを開くには、プログラムのメイン ウィンドウで [エディタ] アイコンをクリックするか、ブラウザ ウィンドウでイメージ ファイル（通常は、サムネイル）をダブルクリックするか、イメージ ファイルを選択して [イメージ] メニューの [イメージ編集] をクリックするか Enter キーを押します。通常、エディタを初めて開く場合、未固定（アンドック）の新しいウィンドウとして開きます。未固定のウィンドウのエディタを閉じるには、Esc キーまたは Alt+F4 キーを押します。

現在のエディタを開いたままさらに新しいエディタを開くには、Ctrl キーを押しながらイメージ ファイルをダブルクリックするか、ブラウザ ウィンドウで [イメージ] メニューの [新しいウィンドウでイメージを編集] をクリックします。エディタをフルスクリーン モードに切り替えるには、Ctrl+F キーを押すか、マウスのホイール ボタンをクリックします（ホイール マウスを使用している場合）。

また、Windows 内の各種イメージのファイル形式とエディタを関連付けて、それらのファイルをダブルクリックするだけでエディタが開くように設定することもできます。ファイル形式とエディタを関連付けるには、[ユーザ設定] ダイアログ ボックス ([設定] → [ユーザ設定]) の [インテグレーション] カテゴリを使用します。

エディタのタイトル バーには、[ファイル]、[イメージ]、および [ツール] の 3 つのメニューが用意されています。これらのメニュー内のコマンドの詳細については、後述のセクションを参照してください。タイトル バーの下にはメイン ツールバーとオプション ツールバーがあります。ツールバーのコンテキスト メニューの [編集] をクリックするか、[設定]、[ツールバ

一のカスタマイズ]、[エディタ] の順にクリックすると、必要に応じて、ツールバー上のボタンをカスタマイズすることができます。ツールバーをカスタマイズして、使用する機会の多いボタンを常に表示しておく便利です。オプション ツールバーは、選択しているオプション ツールに応じて、自動的に表示が切り替わります。

デフォルトのメイン ツールバーには、エディタからブラウザ ウィンドウにすばやく切り替えるためのボタンが最初に配置されています (Enter キーを押して切り替えることもできます)。2 番目の 2 つの矢印ボタンでは、フォルダ内のイメージを前後に 1 ファイルずつ切り替えることができます (マウスのホイール ボタンを回転させることで切り替えることもできます)。

イメージを誤編集してしまった場合は、[イメージ] メニューの [戻す] コマンド (Ctrl+Z) を使用して、直前の操作を行う前の状態に戻すことができます。十分なメモリが備わっていれば、直前の操作だけでなく、複数の操作を元に戻すこともできます。また、元に戻した操作をやり直すには、[イメージ] メニューの [やり直し] コマンド (Ctrl+Y) を使用します。直前の 2 つの操作間をすばやく切り替えるには、[イメージ] メニューの [最後の操作を戻す] コマンド (Shift+Z) を使用します。[戻す] コマンドのメモリ要件については、後述の「プログラムのユーザ設定」を参照してください。

複数ページにわたる TIFF および ZMF ファイルを扱う場合、Zoner Photo Studio のエディタではこれらのファイルのすべてのページを表示することができます。

編集中のファイルをエディタから直接削除することもできます。この場合、[ファイル] メニューの [ファイルの削除] コマンド (Ctrl+Del) を使用します。このコマンドを使用すると、ファイルはごみ箱に移動します (Windows でごみ箱を無効にしていない場合)。また、Ctrl+Shift+Del キーを使用すると、ごみ箱に移動せずに、ファイルを完全に削除することができます。

ウィンドウ下部のステータス バーには、現在開いているファイルに関する情報が表示されます。ステータス バーの一番左側の情報は、[ユーザ設定] ダイアログ ボックスの [一般] カテゴリで [ステータス バー情報] ボックスに変数テキストを入力することで、カスタマイズすることができます。なお、この設定は、エディタとブラウザ ウィンドウの両方で共有されます。変数テキストの詳細については、後述の「変数テキスト」を参照してください。

ステータス バーの 2 番目のセクションには、イメージの大きさ、色の濃さ、および現在表示しているページ (複数のページにわたるファイルの場合) の情報が表示されます。また、ステータス バーの 3 番目のセクションには、マウス カーソルの現在の位置が表示されます。イメージ内の領域選択時または切り取り時には、その選択範囲の幅と高さも表示されます。

ステータス バーの一番右側のセクションには、“イメージ編集” マーク (*) が表示されます (イメージを最後に保存してから編集した場合)。このマークがあるときにエディタを閉じようとする、イメージを保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。ここでイメージを保存しないと、編集内容を失われます。

エディタには、メイン ツールバーとオプション ツールバーが備わっています。メイン ツールバーには、カスタマイズしない限り、同じボタンが表示されます。一方、オプション ツールバーには、選択したオプション ツールに応じて、それぞれ異なるボタンが表示されます。なお、オプション ツールバーに表示されるボタンは、以下のオプション ツールに関連するものです。

- ズーム (虫メガネのアイコン)
- パン (手のひらのアイコン)—イメージの拡大時にその表示領域を調整します
- 切り取り
- 水平/垂直レベルの調整 (水平線のアイコン)
- 共線性の削除 (2 本の垂直線のアイコン)
- 遠近感の補正
- 赤目除去
- クローン スタンプ
- 長方形選択
- 投げ縄
- 多角形投げ縄
- 魔法の杖 (自動選択)

これらのツールを切り替えるには、エディタ上でクリックするだけです。エディタでは、これらのツールのいずれか 1 つが常にアクティブになっています (デフォルトでは、ズーム ツール)。エディタを閉じる時にアクティブになっているツールが次回

起動したときにもアクティブになります。

ツール

ズーム

[ツール] メニューの [ズーム] (Z) ツールでは、イメージの倍率を拡大または縮小することができます。+ (拡大)、- (縮小)、* (100% ズーム)、0 (現在のズーム レベルと画面合わせの切り替え) などのキーボード ショートカットも用意されています。

パン (手のひら)

[ツール] メニューの [パン] (P) ツールでは、イメージの表示領域を調整することができます。このツールを有効にしなくても、スペース キーを押しながらイメージをクリックしてドラッグしたり、マウスの中央ボタンを押しながらドラッグしても、表示領域は調整可能です。また、キーボードの矢印キーを使用することもできます。

切り取り

エディタ上のイメージを切り取るには、イメージ内でそのまま残す領域を選択して、右クリックするか、ツールバーの [切り取り] ボタンをクリックします。ブラウザ ウィンドウの [イメージ] メニューから [ツール]、[切り取り] (Alt+Shift+C) の順にクリックした場合、[切り取り] ツールが有効になった状態でエディタが表示されます。

デジタル カメラと従来のカメラでは、それぞれ異なる縦横比を扱います (デジタルカメラ 4:3、従来のカメラ 3:2)。フォト ラボにデジタル写真を送信する場合など、フォト ラボによって写真の一部 (重要な領域や追加したテキスト) が間違っって切り取られたり、サイズを合わせるために勝手に白い帯を付けられたりするとは避けたいと考えるでしょう。

このような場合のために、切り取り領域の選択時に縦横比や縦横サイズを固定するためのオプションも用意されています (ツールバー上のドロップダウン リスト)。

Ctrl+A を押すと、イメージ全体が選択されます。ただし、縦横比や縦横サイズを固定している場合は、その基準に合わせた最大領域が選択されます。縦横比 (または縦横サイズ) の間の両方向矢印ボタンをクリックすると、両者の値を相互に入れ替えることができます。ただし、Ctrl+A の代わりに Shift+A を押すと、縦向き of イメージに対して横向きの縦横比が設定されていても、自動的に適切な方の縦横比 (この場合、縦向きの縦横比) が判別され、その基準に合わせた最大領域が選択されます。

水平揃え

写真撮影中は、意図していないにもかかわらず、角度のずれが生じてしまうこともあるでしょう。従来の写真編集ソフトウェアでこのようなずれを修正する場合、試行錯誤しながら手動で行わなければなりません。Zoner Photo Studio には、エディタ内に水平レベルを調整するための特別なツールが備わっています。このツールを有効にするには、ブラウザ ウィンドウの [イメージ] メニューから [ツール]、[水平揃え] (Alt+Shift+H) の順にクリックするか、エディタの [ツール] メニューで [水平揃え] (H) をクリックします。このツールは、水平線が傾いてしまったために台無しになってしまった写真を修正するときに便利です。通常、従来の回転ツールでもこのような欠陥を修正することはできますが、その場合、必要な回転角の推測で時間がとられるうえ、完全な結果が得られるとは限りません。Zoner Photo Studio では、水平方向の基準線を目で見ながら調整するだけで、残りの処理は自動的に行われます。

このツールを有効にすると、小さい四角形の 2 つのハンドルの付いた基準線が表示されます。これらのハンドルをクリックして、写真内の目的の水平軸に合うように基準線をドラッグして、[適用] ボタンをクリックします。なお、基準線が 45° 以上の場合は、自動的に垂直方向のずれが調整されるようになっています。また、基準線の調整後、右クリックしても、変更内容を適用することができます。

[自動切り取り] チェック ボックスをオンにすると、回転後、不要な箇所が自動的に切り取られます。オフにすると、写真の周りに白の領域が残ります。

共線性

Zoner Photo Studio には、共線性（ビルの写真などの不要な遠近感）を削除するためのツールが備わっています。このツールを有効にするには、エディタの [ツール] メニューで [共線性の編集] (K) をクリックするか、ブラウザ ウィンドウの [イメージ] メニューから [ツール]、[共線性] (Alt+Shift+K) の順にクリックします。このツールは、ビルの写真などでよく見られる傾斜線（遠近感）を修正する場合に適しています。遠近感があるとオブジェクト（通常はオブジェクト上部）が視覚的に狭く（遠ざかって）見えるため、場合によってはふさわしくありません。

このツールを有効にすると、小さい四角形のハンドルの付いた 2 本の基準線がイメージ上に表示されます。これらの基準線をクリックして、垂直にするオブジェクトの傾斜部分と平行になるようにドラッグします。変更内容を適用するには、[適用] ボタンをクリックするか、イメージ上を右クリックします。共線性を編集するとイメージがある程度変形します。そのため、共線性を編集した後は、余白を削除するためにイメージを切り取る必要があります。編集量が少ない場合は、[自動切り取り] チェック ボックスをオンにするだけで十分です。なお、このチェック ボックスは、デフォルトでオンに設定されています。

遠近感

遠近感を編集することは、基本的に、同時に 2 次元の共線性を編集することと同じです。このツールを有効にするには、エディタの [ツール] メニューで [遠近感の補正] (V) をクリックするか、ブラウザ ウィンドウの [イメージ] メニューから [ツール]、[遠近感] (Alt+Shift+V) の順にクリックします。

このツールを有効にすると、四隅に小さい四角形のハンドルの付いた長方形がイメージ内に表示されます。これらのハンドルをクリックして、長方形の辺が水平または垂直にするオブジェクトの枠に沿うようにドラッグします。変更内容を適用するには、[適用] ボタンをクリックするか、イメージ上を右クリックします。遠近感を編集するとイメージがある程度変形します。そのため、遠近感を編集した後は、余白を削除するためにイメージを切り取る必要があります。編集量が少ない場合は、[自動切り取り] チェック ボックスをオンにするだけで十分です。なお、このチェック ボックスは、デフォルトでオンに設定されています。

赤目除去

エディタには、写真内の赤目を低減するための特別なツールが備わっています。このツールを有効にするには、エディタの [ツール] メニューで [赤目除去] (R) をクリックするか、ブラウザ ウィンドウの [イメージ] メニューから [ツール]、[赤目除去] (Alt+Shift+R) をクリックします。

ツールバーのコントロールを使用して、赤目除去ツールのサイズを設定します。サイズを設定したら、赤目領域をクリックしてドラッグします。赤目除去中に間違った領域を編集してしまった場合でも、その変更内容は元に戻す（[イメージ] → [戻す]）ことができます。赤目を除去する際は、高ズーム レベルを使用することをお勧めします。

複雑な赤目の問題を扱う場合は、[アドバンスト] モードを使用します。このモードでは、スポイト形式のツールを使用して、一般的な赤目の色の代わりに別の色を選択することができます。このモードは、動物の目の色を修正する場合などに使用すると便利です。[暗さ] オプションでは、選択した色を含む領域またはその近接の類似色（類似性の許容値は、[トレランス] オプションで指定します）を含む領域に適用する暗さの度合いを設定します。

クローン スタンプ

このツールを有効にするには、エディタの [ツール] メニューで [クローン スタンプ] (S) をクリックするか、ブラウザ ウィンドウの [イメージ] メニューから [ツール]、[クローン スタンプ] (Alt+Shift+S) の順にクリックします。このツールは、写真の不要な要素（たとえば、フィルムをスキャンした場合、フィルム上のキズが含まれている可能性があります）をレタッチするために使用します。クローン スタンプの利点は、イメージの一部を別の領域で置き換えられることです。たとえば、青い空の写真に電線が写っているため、せつかくの壮大な写真が台無しになってしまっている場合、その電線を空の一部の領域で置き換えることができます。

このツールに切り替えるたびに、Ctrl キーを押しながらクリックして、ソース領域を設定する必要があります。Ctrl キーを押すと、マウス カーソルの円の中に十字形が表示されます。ソース領域を設定したら、イメージ上をクリックしながら

らドラッグして、別の領域にコピーすることができます。なお、ソース領域を設定し直すには、再度 Ctrl キーを押しながら目的の領域をクリックします。[半径] オプションではカーソルのサイズ、[不透明度] オプションでは不透明度、[密度] オプションでは密度、[ぼかし] オプションではぼかし度をそれぞれ設定します。[位置揃え] チェック ボックスをオンにすると、新しいターゲット領域をクリックするたびに、ソース領域の開始点も相対的に移動します。一方、チェック ボックスをオフにすると、新しいターゲット領域をクリックしても、ソース領域の開始点は最初の位置から変わりません。

イメージ内の領域の選択と選択範囲の編集

Zoner Photo Studio には、イメージ内の領域を選択するための 4 種類のツールが備わっています。単に長方形の領域を選択することも、複雑に入り組んだ領域を選択することも可能です。

複雑な領域を選択する場合は、これら 4 つのツール（長方形、投げ縄、多角形投げ縄、魔法の杖）を組み合わせ使用します。

Shift キーを押しながら選択すれば、既存の選択範囲に別の選択範囲を追加することができます。逆に、Ctrl キーを使用すれば、既存の選択範囲の中から特定の領域を選択解除することができます。なお、Ctrl キーを押すと、マウス カーソルの右下に “-” 記号が表示されます。Ctrl キーと Shift キーを同時に押しながら選択すると、既存の選択範囲と新しい選択範囲の交差部分が選択されます。これらの選択方法は、オプション ツールバーのボタンを使用して切り替えることもできます。

長方形の選択

[長方形の選択] ツールを有効にするには、エディタの [ツール] メニューで [長方形の選択] (M) をクリックします。このツールは、1 つまたは複数の長方形の領域を選択するために使用します。ツールを有効にしたら、イメージ内をマウスでクリックしたままドラッグして目的の領域を長方形で囲みます。

投げ縄

[投げ縄] ツールは、イメージ内の任意の領域を手動で選択するために使用します。選択できるサイズや形状に制限はありません。このツールを有効にするには、エディタの [ツール] メニューで [投げ縄] (L) をクリックします。ツールを有効にしたら、マウスをクリックしたままドラッグして目的の領域を “投げ縄” のように囲みます。

多角形の投げ縄

[多角形の投げ縄] ツールを有効にするには、エディタの [ツール] メニューで [多角形の投げ縄] (G) をクリックします。このツールは、多角形の領域を選択するために使用します。ツールを有効にしたら、イメージ内を順番にクリックしていき、領域を連続した直線で囲みます。イメージ内をクリックするたびに 1 本の直線が作成されます。多角形を閉じるには、マウスをダブルクリックするか、多角形の開始点の近く（カーソルの右下に小さい丸マークが表示される）でクリックします。

魔法の杖（自動選択）

[魔法の杖] ツールを有効にするには、エディタの [ツール] メニューで [魔法の杖] (W) をクリックします。このツールは、1 色または同種の色で構成される領域を自動的に選択するために使用します。自動選択の基準は、[トランス] 設定の値によって決まります。[連続] チェック ボックスをオンにした場合、連続した領域（許容範囲外の色を通過することなく到達可能なドット）のみが選択されます。このチェック ボックスをオフにすると、同じ色または同種の色領域がイメージ全体にわたって選択されます。これらの値を設定したら、選択対象の領域をクリックするだけです。

ブローアウトの表示

エディタで作業中のイメージのブローアウト（露出過度）を一時的に表示するには、[ツール] メニューの [ブローアウト表示] (Shift+O) をクリックします。

ブローアウトとは、すべての色要素またはその一部が最大値であるため、その色または全体的な明るさがどこにも残っていない写真の領域のことをいいます。この現象はイメージの品質に影響を及ぼします（露出過度の領域の詳細情報が失われます）。原因は、イメージの露出過度、または非常に強い光源（太陽や火）にあります。ただし、単にブローアウトが存在するだけでは、写真が低品質であるとは限りません。写真の品質を下げているのは、広範囲の領域で頻繁に生じているブローアウトです。また、ブローアウトを避けることができない領域もあります（光るオブジェクトの反射など）。

Zoner Photo Studio では、8 種類のブローアウトを表示することができます。R、G、B の各要素、RG、RB、GB の組み合わせ、RGB（3 つの要素すべてにブローアウトが存在する場合）、要約（すべての要素の合計が特定の限度を超える場合）の 8 種類です。ブローアウトが存在しない領域は白黒で表示され、ブローアウトが存在する領域はブローアウトが生じている要素に関連する色で表示されます。R ブローアウトは赤、G ブローアウトは緑、B ブローアウトは青、RG ブローアウトは黄、RB ブローアウトは紫、GB ブローアウトはターコイズ（青緑）、RGB ブローアウトは鮮やかな黄（山吹色）、要約ブローアウトは黄色がかった白（黄白色）です。

印刷前のカラー プレビュー

[ツール] メニューの [印刷前のカラー プレビュー] コマンド (Shift+P) は、色プロファイルを有効にし ([ユーザ設定] → [色管理] → [色管理を使う])、プリンタのプロファイルを選択している場合にのみ使用できます。このコマンドを使用すると、イメージの色はプリンタの色プロファイルに合わせて変換され、その結果が画面に表示されます。

[ブローアウト表示] と [印刷前のカラー プレビュー] の 2 つのコマンドは、イメージの表示だけに影響するという点では同じです。つまり、ファイルを保存したときに、イメージは通常の表示で保存され、これらのモードでの表示で保存されるわけではありません。このコマンドは、イメージを切り替えると自動的にオフになります。

色プロファイルの割り当て

[イメージ] メニューの [色プロファイル割り当て] コマンドでは、イメージの現在の ICC 色プロファイルを新しいプロファイルに置き換えます。このとき、イメージ自体の色情報は変更されません。このコマンドを使用するには、色管理を有効にする必要があります。

プロファイルに変換

[イメージ] メニューの [プロファイルに変換] コマンドでは、イメージの写真データを、[再生] ドロップダウン メニューで指定した方法で、選択したプロファイルの色空間に変換します。[再生] ドロップダウン メニューでは、[知覚的] を使用することをお勧めします。

PDF にエクスポート

[ファイル] メニューの [PDF にエクスポート] コマンド (Ctrl+Shift+E) では、生成した印刷出力 (ZMP) ファイル (ブラウザ ウィンドウの [公開] → [印刷とエクスポート] コマンドに関する説明を参照) を PDF (Portable Document Format) ファイルに変換します。[PDF エクスポート パラメータ] ダイアログ ボックスでは、PDF ファイルにタイトル、件名、作成者、およびキーワードの属性を設定することができます。このダイアログ ボックスのその他の項目は、各種変換パラメータです。

通常は、指定した ZMP ファイルに含まれるすべてのフォントを PDF ファイルにも埋め込むことで、コンピュータ上でどのフォントが使用されていても PDF ファイルが正しく表示されるようになります。ただし、必要に応じて、フォントをカーブに変換することもできます。PDF ファイルにほとんどテキストが含まれていない場合は、フォント ファイルを埋め込む必要がない分、カーブに変換したほうがよいこともあります。ただし、カーブに変換すると、テキストに対して検索、コピーな

どの操作をいっさいできなくなります。

一般的に、何らかのイメージ圧縮を使用することが望まれます。TrueColor イメージ（通常コンピュータが扱えるほとんどの色に対応したイメージ、写真など）には JPEG 圧縮が適しています。一方、その他の種類のイメージには ZIP 圧縮が適しています。これらの圧縮タイプに対して、さらに詳細な設定（ZIP 圧縮の場合は圧縮レベル、JPEG 圧縮の場合は圧縮品質）が可能となっています。

PDF 内のイメージにはカメラの実際の写真に近い高い画質を実現することもできますが、PDF ファイルを画面で表示したり、家庭内プリンタで印刷したりするだけの用途で使用する場合は、必ずしも高画質である必要はありません。これに対応するために、[ビットマップ リサンプリング] オプションが用意されています。PDF ファイルを画面で表示するだけの場合は 96 DPI で十分です。ドラフト レベルの印刷の場合は 150 DPI が一般的です。高画質の印刷を求める場合は 300 DPI 以上が適しています。[リサンプリング方法] オプションでは、イメージをリサンプリング（縮小）するときに使用する方法を指定します。最も高い画質を実現するには、[Super sampling] を選択します。[ベクタ透過のための DPI] オプションでは、PDF 内のベクタ透過性の品質レベルを設定します。DPI レベルの指定方法は、[ビットマップ リサンプリング] の場合と同じです。

[エクスポート後、自動的に開く] チェック ボックスをオンにすると、エクスポートが完了したら PDF ファイルが Windows で関連付けられたプログラム（通常は、Adobe Acrobat Reader）で自動的に開きます。

[テキストとベクタの圧縮] と [フォントの圧縮] のチェック ボックスをオンにすると、PDF にテキストとベクタ、およびフォントを保存するときに ZIP 圧縮が使用されるようになります。

[アンチエイリアス ビットマップ] チェック ボックスをオンにすると、出力 PDF ファイル内の各イメージに特別な属性が設定されます。これによって、PDF ビューアで 100% 以外のズーム レベルでイメージを表示するときに、イメージが補正され見た目が向上します。

ビットマップに変換

[ファイル] メニューの [ビットマップに変換] では、ベクタ イメージまたは印刷出力ファイルをビットマップに変換します。ドキュメントが複数のページにわたる場合は、現在表示しているページだけが変換されます。[ビットマップに変換] ダイアログ ボックスでは、対象のビットマップのサイズを DPI または固定ピクセルで指定することができます。

編集

Zoner Photo Studio のイメージ処理機能の大部分がエディタとブラウザ ウィンドウの両方で使用できるようになっています。各編集機能の設定と使用方法については、後述の「イメージの効果、およびイメージの編集および拡張」を参照してください。

イメージの取り込み

デバイスからの取り込み

今日のデジタル カメラには、たいてい USB マス ストレージ（大容量記憶装置）のテクノロジーが採用されています。このようなデバイスは、コンピュータに接続すると標準ディスクのように動作します。つまり、エクスプローラなどでディスクと並んで表示され、操作方法もディスクと変わりません。製造元の中には、独自の接続タイプに依存し、コンピュータに特別なドライバやソフトウェアをインストールしないと動作しないものもあります。Zoner Photo Studio は、このような特別な接続を利用するカメラの中で最も一般的なものの 1 つである Canon カメラに対応しています。ただし、Canon カメラの対応機種を所有しており、そのカメラに付属のドライバを正しくインストールしていないと意味がありません。

ブラウザ ウィンドウの [取得] メニューで [ディスク デバイスから] をクリックすると、カメラから写真をダウンロードするためのウィザードが開始します。ウィザードの最初の手順では、カメラとの接続の種類を選択します。[OK] ボタンがグレーアウト（無効化）されている場合、カメラが接続されていないか、電源がオフになっています。その場合、別のフォルダまたはカメラを選択するか、デバイスを接続または電源をオンにして、[リフレッシュ] ボタンをクリックします。2 番目の手順には、カメラ（またはその他のデバイス）上のイメージのサムネイルが表示されます。使用しているカメラが EXIF 情報の一部としてイメージのサムネイルを生成できる場合、Zoner Photo Studio ではそのサムネイルを利用するため、ウィザードでのサムネイルの表示速度がかなり速くなります。このリストに表示されている写真は任意のフォルダに移動またはコピーすることができます。デフォルトでは、ターゲット フォルダは、Zoner Photo Studio を初めて起動したときに [画像] フォルダとして指定したフォルダ、または [ユーザ設定] ダイアログ ボックスの [フォルダ] カテゴリで [画像] フィールドに後から指定し直したフォルダになります。この動作を変更するには、ウィザードの左下にある [オプション] ボタンをクリックして、[オプション] ダイアログ ボックスで [ターゲット フォルダ] グループのオプションを変更します。

[オプション] ダイアログ ボックスには、他にもさまざまなオプションを設定することができます。最初のオプションでは、イメージを EXIF 方向情報（イメージ内に EXIF 情報を格納できるカメラの場合）に基づいて回転させるかどうかを指定します。2 番目の [バッチ テキスト割り当て] グループでは、ダウンロードした写真に作成者および著作権に関する EXIF 情報を自動的に追加するかどうかを指定します。3 番目の [ターゲット フォルダ] グループでは、上述のオプションの変更のほかにも、日付別のサブフォルダにイメージを自動的に分類するかどうかを指定することができます。EXIF の写真撮影日に基づいてフォルダを作成するように指定すると、複数のフォルダが作成されます（カメラに複数の日にわたって撮影された写真が含まれている場合）。[イメージを読み取り専用を設定する] オプションでは、間違っても上書きされることを防止するため、カメラからダウンロードした写真のマスタ コピーに読み取り専用の属性を設定することができます。

Zoner Photo Studio では、一度デバイスに接続するとそのパスが自動的に記憶されるようになっているため、このパスを何度も指定する必要はありません。次回 [ディスク デバイスから] コマンドを使用すると、同じパスが自動的に入力されます。何らかの理由でパスが無効の場合（カメラが接続されていなかったり、または別の種類のカメラが使用されている場合）は、必要に応じて、パスを変更することができます。

[ユーザ設定] ダイアログ ボックスの [一般] カテゴリで、カメラをコンピュータに接続したときに自動的にこのウィザードを表示するように設定することができます。

TWAIN インターフェイスを介したイメージの取り込み

TWAIN インターフェイスは主にスキャナとの通信のために使用されます。ただし、USB ストレージをサポートしていないカメラからイメージを取り込むために TWAIN を使用することもできます。TWAIN を介して Zoner Photo Studio にイメージを取り込むには、[取得] メニューの [TWAIN デバイスから] をクリックします。TWAIN デバイスのインターフェイスが表示され、イメージの取り込み先のフォルダを指定することができます。

TWAIN インターフェイスを介した場合、Zoner Photo Studio にイメージ データを取り込むはできますが、イメージに EXIF 情報を含めることはできません。

クリップボードからのイメージの取り込み

Windows クリップボードにイメージをコピーしている場合、[取得] メニューの [クリップボードから] をクリックすると、そのイメージが新しいエディタで開きます。そのイメージは、エディタの [ファイル] メニューの [保存] コマンドを使用して、任意の形式に保存することができます。

スクリーンショット

Windows では、PrintScreen キーを押すと画面全体のスクリーンショットがクリップボードにコピーされ、Alt+PrintScreen を押すとアクティブ ウィンドウのスクリーンショットがコピーされます。Zoner Photo Studio には、この

ようにして撮られたスクリーンショットをファイルに直接保存したり、エディタで直接開いたりするためのモードが用意されています。このモードのオン/オフを切り替えるには、[取得] メニューの [スクリーン キャプチャから] コマンドを使用します。このモードをオンにするたびに、スクリーンキャプチャの設定ダイアログ ボックスが表示されます。また、オンの状態のときは、Windows システム トレイ (Windows タスクバーのシステム時計の近く) に特別なアイコンが表示されます。このアイコンを右クリックしても、このモードをオフにすることができます。

Web サイトからのイメージの取り込み

ブラウザ ウィンドウで、[取得] メニューの [Web サイトから] コマンドを使用すると、Web サイトから Zoner Photo Studio 7 にイメージをダウンロードすることができます。[Web サイトから取得] ダイアログ ボックスには、Web サイトの URL の指定、メイン ページから下位レベルへのリンク追跡数 (リンク先のページのイメージもダウンロードする場合) の指定、特定のドメインのみから検索するかどうかの指定、などを行います。

ダウンロードの種類 ([ダウンロード先] フィールド)

- **ターゲット フォルダ**—イメージは、ダウンロード元とは関係なく、[ターゲット フォルダ] フィールドで指定したフォルダに保存されます。同名のファイルが複数存在する場合は、区別するために、アンダースコア () と数字がファイル名の後に追加されます。
- **サイト名にちなんだサブフォルダ**—イメージは、ダウンロード元のドメインと同じ名前のフォルダに保存され、実際のアドレスに基づいて名前が付けられます。

例:

フォルダ:www.zoner.com
ファイル:ZPS.test.mts.glacier.jpg

- **サイトと同じ構造のサブフォルダ**—イメージは、Web サイトと同じ階層構造を持つフォルダに保存されます。

例:

フォルダ:www.zoner.com
サブフォルダ:¥ZPS¥test¥mts
ファイル:glacier.jpg

Canon RAW からのイメージの取り込み

ブラウザ ウィンドウで、[取得] メニューの [Canon RAW から] コマンドを使用すると、サポートされている Canon カメラからの RAW ファイル (拡張子: CRW または TIF) を処理することができます。この処理は、Canon 独自のライブラリを使用して行われます。

最初の変換パラメータは [出力フォーマット] です。[TIFF 16b] オプションが備わっているため TIFF 16b でのある程度の作業は可能になっていますが、重要となるのは Zoner Photo Studio 7 では 8 ビットの情報を扱うことができ、処理を進める前に 16 ビットのイメージを 8 ビットのイメージに変換することができることです。変換方法に関するオプション ([TIFF 16b] オプションをオンにしたときのみ使用可能) では、通常の使用するか、さらに編集するため値を元の線形形式で格納するかどうかを設定します。

その他の変換パラメータはデフォルトでカメラ値 (露出中にカメラ自体に設定された値に対応) に設定されます。ホワイト バランスのドロップダウン リストの横には、照度調整用のスライダとスポイト ボタン (写真上の色をクリックして目的の白/グレー色を設定することが可能) が用意されています。他のパラメータでは、写真の色の要素を強めたり弱めたりすることができます。色の保存方法 (印刷には AdobeRGB、画面表示には sRGB が最適) を設定したり、色収差を低減するフィルタを有効にしたりするためのオプションも用意されています。

変換処理で利用可能なオプションとパラメータは、特定の CRW ファイルを生成するために使用されるカメラのモデルによって異なります。RAW を使用する利点と欠点については、以下の「RAW フォーマット」の説明を参照してください。

RAW フォーマット

RAW フォーマットとは、カメラのセンサーから直接取得された未処理（“RAW”）の値を持つファイルであり、プロフェッショナルおよびセミプロフェッショナル向けのカメラでのみ取り扱うことができます。これらの値から実際の写真を生成するには、RAW 変換ユーティリティ（通常はカメラ自体で使用される）の備わった特別なプログラムが必要になります。つまり、センサーからの値の補間、ホワイト バランスの実行、色相、彩度、および明度の設定、鮮明さの調整、8 ビット色への変換、および露出の補正を行えるプログラムが必要になります。RAW フォーマットから写真を生成する利点は、ニーズに合わせて、個々の処理のパラメータをカメラの代わりに直接設定できることです。ただし、RAW に対応しているプログラムは非常に稀である（開発が難しい）という欠点があります。これは、カメラの製造元によって RAW の記録方法は異なり（同じ製造元であってもモデル間で記録方法が異なることもあります）、現時点ではそれらの RAW フォーマットを公開している製造元がないためです。

Zoner Photo Studio 7 は、RAW に対応している数少ないプログラムの 1 つです。Zoner Photo Studio 7 のブラウザ ウィンドウでは、Canon、Olympus、Nikon、および Minolta 製のカメラの RAW フォーマットからプレビューと EXIF 情報を読み込むことができます。

イメージの効果、およびイメージの編集および拡張

ブラウザ ウィンドウおよびエディタの [イメージ] メニューには、イメージの編集機能が各種用意されています。エディタとは違って、ブラウザ ウィンドウでは同時に複数のイメージを編集することができます。複数のイメージを選択した場合は、選択したすべてのイメージに対して操作が適用されます。ファイルを何も選択していない場合は、そのとき表示しているフォルダ内のすべてのイメージに対して操作が適用されます。ただし、回転や反転といった直接的な操作を行うには、ファイルを選択する必要があります。

警告

ディスク上のファイル自体に直接適用される操作は元に戻すことはできません。

元に戻せない編集ミスをしてしまった場合でも復元が可能なように、ダウンロードが終わったらすぐにオリジナルのバックアップを取っておくことを強くお勧めします。Zoner Photo Studio の CD への書き込み機能を使用して、バックアップを作成しておくのもよいでしょう。

共通のイメージ編集ダイアログ ボックス

Zoner Photo Studio では、ほとんどのイメージ編集操作を仕様共通のダイアログ ボックスを使用して行います。このダイアログ ボックスの上部はすべての編集操作で同じです。ダイアログ ボックスの下部は、編集操作の種類、または適用する効果の種類に応じて変わります。

ダイアログ ボックスの上部では、編集内容を実際に適用する前にプレビューをあらかじめ確認することができます。プレビュー ペインの左上には、ズームイン、ズームアウト、100% ズーム、画面合わせの 4 種類のズーム調整用ボタンが配置されています（マウス ホイールを使用してズームを調整することも可能です）。ズーム調整用ボタンの横には、ヒストグラムとブローアウトの表示/非表示を切り替えるためのボタンが配置されています。ヒストグラムは、プレビュー ペイン内の任意の位置に移動することができます。また、ヒストグラムは、全体的な明るさと 3 種類の色チャンネル間を切り替えて表示することができます。

プレビュー ペインの右上には、プレビュー ペインのレイアウトを変更するための 4 種類のボタンが配置されています。デフォルトでは、2 つのプレビュー（編集内容の適用前と適用後）が横に並んで表示されます。編集内容の適用前または適用後のいずれか 1 つのプレビュー表示のときに、そのプレビュー上をマウス ホイールでクリックすると、一時的にもう一方のプレビューが表示されます。

プレビューをズームインしているためにイメージ全体がプレビュー ペインに表示されていない場合、編集内容の適用前または適用後のいずれかのプレビューをクリックしながらドラッグすると、プレビュー ペインでのイメージの表示範囲を変更することができます。この仕様共通のダイアログ ボックスはサイズを変更することができます。ダイアログ ボックスのサイズを大きくすればするほど、プレビュー ペインのサイズも大きくなります。

ダイアログ ボックス下部の一部のオプションでは、スポイト ツールを使用して、プレビューから色を選択することができます。この場合、スポイト マークの付いたボタンをクリックして、プレビュー上で目的の色をクリックします。

プレビューの自動更新により処理速度が低下している場合は、[自動プレビュー] チェック ボックスをオフにして、必要となしにのみ手動で（[プレビュー] ボタンをクリックして）プレビューを更新することもできます。イメージを一括で処理する場合、ダイアログ ボックスの左側に、対象のファイルのリストが表示されます。このリストからファイルを選択して、さまざまなイメージに対して編集内容の効果を確認することができます。編集内容は、1 つの選択したイメージにのみ適用することも（[適用] ボタン）、リスト内のすべてのイメージに適用することもできます（[すべてに適用] ボタン）。

プレビュー ペインの下には、プリセット（ダイアログ ボックスの設定）を保存したり読み込んだりするためのオプションが配置されています。編集内容を適用すると、そのときのダイアログ ボックスの設定が [＜前回の状態＞] のプリセットとして自動的に保存されます。このプリセットは、次回同じダイアログ ボックスを開いたときに自動的に読み込まれます。ダイアログ ボックスの設定をプリセットとして保存するには、[プリセットの保存] ボタンを使用します。保存できるプリセットの数に制限はありません。不要なプリセットを削除するには、[プリセットの削除] ボタンを使用します。ダイアログ ボックスをデフォルトの設定に戻すには、[デフォルト プリセット] ボタンを使用します。

ダイアログ ボックスを閉じると、サイズ、ブローアウトとヒストグラムの設定、[自動プレビュー] チェック ボックスの設定は自動的に保存されるようになっています。これらの特定の設定（ダイアログ ボックスのサイズを除く）は、各編集ダイアログ ボックスで別々に保存されます。

不可逆 JPEG 圧縮と可逆操作

JPEG 圧縮は、写真データを効率的に保存することを目的として開発され、1990 年に ISO によって国際標準規格として制定されました。JPEG 圧縮では、人間の目の盲点を利用した形で、ある程度の情報を喪失したうえでデータを保存します。つまり、人間の目はイメージ内の細かな詳細よりも大きな変更点に着目し、色の変更よりも明るさの変更に敏感であることを利用し、色要素を低解像度になるように再計算（サブサンプリング）することで色情報の量を削減します。

維持する詳細データの量は 1～100 までの値を指定して変更可能です。ただし、100 を指定しても必ずしも 100% の品質が得られるとは限りません。高い値を指定すると、データの劣化は抑えられますが、ファイル サイズが大きくなります。逆に、低い値を指定すると、ファイル サイズは小さくなりますが、データの劣化が大きくなります。

JPEG 圧縮のパラメータは、イメージの品質とファイル サイズにのみ影響を及ぼします。イメージ自体のサイズ（ピクセル数）は変更されません。

最適な圧縮値は、イメージの用途に合わせて変わります。ディスク スペースを最大限に節約することを重要視している場合は 30～60 の低い値を使用します。インターネット上への掲載、電子メールでの送信、といった一般的な用途であれば 70～80 の値を使用します。DTP の用途では 80～100 の高い値を使用します。大きい値を使用すると、イメージに格納される詳細データの量も増えます。しかし、その依存関係は線形ではありません。値が 90 を超えると、データの量の増加は顕著ですが、イメージの品質が向上しているかどうかはほとんどわかりません。

計算時の丸め誤差や最終的な色のサブサンプリングは、値に 100 を使用していたとしても、出力イメージにいくらか影響を及ぼします。そのため、JPEG 圧縮は、ペン画や線画のような“緻密な”イメージが必要な場合にはまったく不向きです。しかし、JPEG 圧縮を使用すると、大きな圧縮量が得られるうえ、その影響も肉眼では見えないレベルのものであるため、写真での作業には欠かせないものとなっています。ちなみに、JPEG グループは、可逆 JPEG 圧縮の ISO 規格も開発しました。ただし、その規格は実際には使用されていません（今日では、比較的新しい PNG 規格を使用したほうが可逆 JPEG 圧縮よりも優れた結果が得られるようになったため）。

デジタル カメラから取り込んだ写真で作業する際は、間違った方向を持つイメージを回転する必要がある場合があります。JPEG 圧縮のイメージを開いて、それを編集して保存し直す操作はデータを劣化させるため、Zoner Photo Studio では、代わりに、回転、ミラーリング、および反転の操作に対して、JPEG イメージの可逆変換を行うことができますようになっています。

JPEG 圧縮/伸張では、8 × 8 ピクセル ブロック、および 1 または 2 の色要素サンプリング値が使用されます。

そのため、可逆変換は、8 の倍数、16 の倍数、またはその 2 つの混合（エンコード方法によって異なる）の長さを持つ JPEG イメージに対してのみ可能です。サンプリングは両方向で 2:1 が標準的ですが、場合によっては水平方向にのみ 2:1 のものもあります。したがって、標準的なブロックの大きさは、16 × 16、16 × 8、および 8 × 8 になります。カメラでは通常これらの数字の倍数の大きさの写真を生成するため、Zoner Photo Studio での標準的なデジタル写真（切り取りもサイズ変更もしていない写真）の回転および反転は常に可逆的になります。可逆変換が技術的に不可能な場合は、Zoner Photo Studio では、[ユーザ設定] ダイアログ ボックス（[設定] → [ユーザ設定]）の [一般] タブの [イメージが不可逆 JPEG 圧縮に適切でない場合] の設定に基づいて処理を進めます。

可逆編集はブラウザ ウィンドウからのみ可能です。エディタで作業する場合、ファイルは開くときに必ず伸張され、閉じるときに再圧縮されるというプロセスを経るため、可逆編集は不可能です。エディタでイメージを開いて、それを編集して保存するという操作を繰り返し行う必要がある場合にできるだけデータの劣化を避けるには、JPEG 圧縮の品質レベルを 90~95 に設定する必要があります（[設定] → [ユーザ設定] → [一般] → [デフォルト JPEG 圧縮]）。特定のイメージだけにその値を設定するには、[名前を付けて保存] コマンドを使用したときに表示される [フォーマット] ダイアログ ボックスを使用します。別の方法としては、PNG や TIFF などの可逆圧縮の形式を使用することです。PNG は高品質を実現できる形式ですが、TIFF や JPEG とは違って、EXIF データ（写真に関する情報）をサポートしていません。

回転と反転

左に回転/右に回転

ブラウザ ウィンドウで、回転するすべてのイメージを選択して、[イメージ] メニューの [回転と反転] から [左に回転] (Ctrl+L) または [右に回転] (Ctrl+R) をクリックします。選択したすべてのイメージが同時に回転します。ブラウザ ウィンドウで JPEG イメージを回転しても、データが劣化することはありません（可逆）。なお、同じメニュー項目がエディタにも用意されています。

回転角度指定

ブラウザ ウィンドウで、指定の角度で回転するすべてのイメージを選択して、[イメージ] メニューの [回転と反転] から [回転角度指定] (Ctrl+Shift+R) をクリックします。なお、同じメニュー項目がエディタにも用意されています。

EXIF を利用して方向を調整

特別なセンサー付きの特定のデジタル カメラでは、縦/横の方向フラグをイメージごとに保存できるようになっています。そのため、コンピュータにイメージを取り込む際にイメージが回転されていなくても、各イメージの回転情報が EXIF データとして保存されます。Zoner Photo Studio 7 では、このようなイメージを未回転状態のまま、ブラウザ ウィンドウ（サムネイル）またはエディタで表示します。これらのイメージを正しく回転するには、ブラウザ ウィンドウで対象のイメージを選択して、[イメージ] メニューの [回転と反転] から [EXIF を利用して方向を調整] をクリックします。ブラウザ ウィンドウで JPEG イメージを回転しても、データが劣化することはありません（可逆）。

方向と回転

この機能では、選択したすべてのイメージを縦向きまたは横向きに回転できます。また、回転方向（右方向または左方向）を指定することもできます。この機能を使用するには、ブラウザ ウィンドウで [イメージ] メニューの [回転と反転] から [方向と回転] をクリックします。ブラウザ ウィンドウで JPEG イメージを回転しても、データが劣化することはありません（可逆）。

水平反転/垂直反転

ブラウザ ウィンドウまたはエディタで、[イメージ] メニューの [回転と反転] から [水平反転] または [垂直反転] をクリックすると、イメージを反転することができます。ブラウザ ウィンドウで JPEG イメージを回転しても、データが劣化す

ることはありません（可逆）。

写真の拡張

Zoner Photo Studio の写真拡張機能を使用するには、エディタまたはブラウザ ウィンドウの [イメージ] メニューで [イメージ拡張] の各コマンドをクリックします。これらの機能の中には、別の機能と組み合わせて使用したほうが効果的であるため、複数のダイアログ ボックスに用意されているものもあります。たとえば、自動ホワイト バランス機能がこれに該当します。エディタでは、編集内容をイメージ全体に適用することも、選択した領域にのみ適用することもできます。

各機能のダイアログ ボックスにはプレビュー ペインが備わっているため、編集内容を実際に適用する前に、目的の効果が得られるまで繰り返し調整することができます。

レベル

[イメージ] メニューの [イメージ拡張] で [レベル] コマンド (Shift+L) をクリックすると、色調や色バランスを修正するためのダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスでは、イメージ内の RGB (赤/緑/青) 色要素のレベルを直接編集することができます。レベルの編集は、[色の自動訂正] チェック ボックスのオン/オフを切り替えることで、自動的に行うことも手動で行うこともできます。ダイアログ ボックスの左側には、ヒストグラム、およびこのヒストグラムを手動で編集するためのオプションが備わっています。[チャンネル] オプションでは、ヒストグラムが関連する色要素を選択します。各色要素および RGB (全体的な明るさレベル) に対して別々の設定を適用することができます。また、入力レベル、出力レベル、およびガンマ補正レベルを設定することもできます。ガンマ補正レベルのオプションは、入力レベルと出力レベルのオプションの間に配置され、中間色調の明るさの設定に使用します。これら 5 つの値は、対応するフィールドに直接入力して設定することも、ヒストグラムと出力レベル バーの下の三角形マークをドラッグして設定することもできます。

[黒色] と [白色] のオプションでは、スポイト ツールでプレビュー内をクリックして、R、G、B の明るさの入力レベルを手動で指定することができます。このオプションは、イメージ内の最も暗いピクセル/最も明るいピクセルを指定する場合に便利です。

[色の自動訂正] チェック ボックスをオンにしている場合、各チャンネルの明るさレベルは自動的に設定されます。[自動コントラスト] オプションを使用すると、すべてのチャンネルで同じ値が設定されます。[自動レベル] オプションを使用すると、各チャンネルで別々の値が設定されます。つまり、[自動コントラスト] では写真全体の明るさがその最大値まで強調され、[自動レベル] では各色が強調されます (イメージの色合いが変わります)。[対象色とカットオフ] オプションでは、最も明るい領域と最も暗い領域をマッピングし直すための色を指定することができます。また、無作為の極端な値を避け、実際の光や影のピクセルが確実に使用されるように、ヒストグラムの左右の領域を切り取る割合 (%) を設定することもできます。

色の拡張

[イメージ] メニューの [イメージ拡張] で [色の拡張] コマンド (Ctrl+1) をクリックすると、色を編集するためのダイアログ ボックスが表示されます。

このダイアログ ボックスでは、RGB 色要素の編集、色相、彩度、および明度の変更、明るさとコントラストの変更、およびガンマの調整を行うことができます。[モード] オプション (通常、光のみ、影のみ) と [色を維持] オプションは、ガンマの調整時にのみ関係します。[色を維持] チェック ボックスをオンにすると、イメージを大幅に明るくした後でも色の色相が維持されるため、イメージの色が “薄く” なりません。また、色要素を編集しても明るさが維持されるようになります。[自動コントラスト] チェック ボックスをオンにすると、イメージのコントラストが自動的に調整されるようになります。

色温度の調整

[イメージ] メニューの [イメージ拡張] で [色温度の調整] コマンド (Ctrl+2) をクリックすると、色温度を調整するた

めのダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスでは、不適切なホワイト バランス設定が原因で変色してしまった写真を手動で修正することができます。修正処理は、自動的に行うか、選択した中間色（通常はグレー）の設定に基づいて行うか、ユーザ定義の光の温度に基づいて行います。

[手動で中間色を設定] オプションでは、手動で“グレー色”を選択することができます。“グレー色”とは、編集を適用した後でも色調を含まない色です。また、完全な白ではなく、色の変化は完全な白のピクセルから推定することはありません（完全な白では、3 種類の色要素すべてが正確に最高値になっているため）。

[光の温度を設定] オプションを選択すると、その下の 2 つのコントロールが使用できるようになります。最初のコントロールではイメージの現在の色温度を設定し、2 番目のコントロールでは目的の色温度を設定します。

露出拡張

[イメージ] メニューの [イメージ拡張] で [露出拡張] コマンド (Ctrl+3) をクリックすると、露出を調整するためのダイアログ ボックスが表示されます。

このダイアログ ボックスでは、自動拡張と手動拡張の 2 種類のモードを使用することができます。手動拡張モードでは、コントラストの強さ、または露出の量（露出過度/露出不足）を補正するためのオプションを選択します。また、効果の適用先（イメージ全体、明るい領域、暗い領域）と強度レベル（低、通常、高）を指定します。また、[自動ホワイト バランス] チェック ボックスをオンにすると、ホワイト バランスが自動的に調整されるようになります。

イメージの複合編集（イメージの拡張）

[イメージ] メニューの [イメージ拡張] で [イメージ拡張] コマンド (Ctrl+4) をクリックすると、複数の種類の編集を組み合わせて設定することができる特別なダイアログ ボックスが表示されます。

このダイアログ ボックスでは、イメージの拡張に関するさまざまな編集をドロップダウン リストから選択して設定します。ドロップダウン リストの最初の 4 つのオプション（[ヒストグラム均等化]、[ヒストグラム均等化（上級）]、[RGB ヒストグラム均等化]、[RGB ヒストグラム均等化（上級）]）では、明るさを適切に分布させることで、写真のディテールを強調することができます。また、このドロップダウン リストには、アンチビネット、露出の拡張、影の拡張を行うためのオプションも用意されています。これらの機能では適切な強度で適切な効果を適用することで写真を著しく強化することができるため、写真の種類によっては他の機能よりも便利で役立ちます。

ヒストグラムの自動バランス調整は、写真の明度を最適に設定して、そのディテールを最大限に強調するために使用します。Zoner Photo Studio では、イメージ全体または個々の色チャネルに対して、全体的なバランス調整と細かいレベルのバランス調整の両方を行うことができます。効果の強度は 0～100% の範囲で設定することができ、適用先にはイメージ全体、光領域、影領域のいずれかを指定することができます。

アンシャープ マスクを使用した鮮明さ向上

[イメージ] メニューの [イメージ拡張] で [アンシャープ マスク] コマンド (Ctrl*5) をクリックすると、写真の鮮明さを向上させるためのダイアログ ボックスが表示されます。

この機能は、伝統的なフィルム テクノロジーに基づいて開発され、適切に使用すると、写真撮影時やスキャン時に生じたぼけを効果的に取り除くことができます。その手法では、まず、“アンシャープ マスク”と呼ばれる、元のイメージをぼかした特別なイメージを作成し、そのぼかしたイメージと元のイメージとの差分を取ります。次に、その差分を調整して元のイメージに追加することで、輪郭が強調されたイメージを作成します。

[半径] オプションでは、マスクのぼかしレベルを設定します。この値は非常に重要になります。高すぎる値を設定すると、イメージの鮮明さが上がりすぎて、イメージ内の輪郭が発光しているように見えてしまいます。[しきい値] オプションでは、2 つの明るさレベルのしきい値（輪郭として見なす値）を設定します。0 を設定すると、効果はイメージ内のすべてのピクセルで使用されます。効果がイメージ内のノイズを過度に強調している場合、2～20 の範囲の値を設定することをお勧めします。

[明るさのみ] チェック ボックスをオンにすると、イメージの明るさだけにアンシャープ マスクが適用されるようになります。通常の方法ではイメージの色が不適切に変更される場合、このチェック ボックスをオンにしてください。[高品質] チェック ボックスをオンにすると、計算の一部がより正確な方法で行われるようになります。このチェック ボックスをオンにすると、処理速度は遅くなりますが、イメージの品質は向上します。

鮮明さ/ぼかしの調整

[イメージ] メニューの [イメージ拡張] で [鮮明さ/ぼかし] コマンド (Ctrl+6) をクリックすると、鮮明さとぼかしを調整するための単純なダイアログ ボックスが表示されます。

最初のスライドでは、イメージの鮮明さまたはぼかしのレベルを設定します。イメージの色要素の代わりに、明るさだけを扱うには、[明るさのみ編集] チェック ボックスをオンにします。2 番目のスライドでは、ぼかし効果の強度を設定します。

影の強調

[イメージ] メニューの [イメージ拡張] で [影の強調] コマンド (Ctrl+7) をクリックすると、影を強調するためのダイアログ ボックスが表示されます。この機能は、壮大な動的スペクトルのイメージ（たとえば、明るい空の写真の場合、その下の領域は暗すぎてディテールに欠けることがよくあります）を向上させる場合に使用すると特に効果的です。この機能のアルゴリズムは、プロのグラフィック デザイナーがよく行う高度なエディタでのレイヤ作業（白黒反転のマスクを使用した元の写真の混合）をシミュレートするものです。しかし、Zoner Photo Studio 7 では、この処理は完全に自動的に行われます。

[ソースをマスク] オプションは、効果を適用することでイメージの特定の色要素が極端に強調された場合に使用すると便利です。たとえば、赤の領域が多いイメージで影を強調したときに赤の要素が極端に変更されてしまった場合、ソースとして赤チャンネルを選択すると、影の強調の効果は赤の要素に対して適用されなくなります（マスクの反対が実際に使用されます）。残りのオプション（[影をくっきりする]、[軽くぼかす]、[中間調]）は、写真の性質と求める結果に強く依存します。そのため、プレビュー ペインを使用して、目的の効果が得られるまで繰り返し調整することをお勧めします。[効果を強調] オプションは、極端に露出不足の写真に対して、効果の強度を倍増するために使用します。ただし、使用を間違えると、写真がさらに悪化するので注意してください。[コントラストを強調] オプションは、自動的にコントラストを強調するために使用します。

イメージの欠陥修正

ノイズ

Zoner Photo Studio 7 には、デジタル イメージからノイズを取り除くためのツールが用意されています。ノイズを取り除くには、[ノイズ] コマンド ([イメージ] → [イメージの欠陥修正]) を使用します。ノイズは、長い露出時間が原因で起こるノイズ（ホット ピクセル ノイズ）と、より一般的な付加的ノイズに分類されます。

このコマンドでは、これら両方のノイズに対応可能です。どちらのノイズの場合でも、[ノイズ タイプ] オプションで、イメージから取り除くノイズの粗さを指定します。付加的ノイズを取り除く場合は、他にも 3 つのオプションを設定することができます。[イメージ タイプ] オプションでは、写真のノイズ、またはスキャンしたテキストのノイズのどちらかを修正するのかを指定します。[フィルタ強度] オプションでは、ノイズ除去フィルタの適用強度を指定します。[輪郭検出] オプションは、ノイズ除去フィルタの影響で輪郭がぼやけてしまうことを防止するために使用します。

色収差

[色収差] コマンド ([イメージ] → [イメージの欠陥修正]) を使用すると、色収差の起こっている写真を向上させることができます。

色収差とは、光の波長によって屈折率が異なることに起因して、色のずれが生じてしまうという現象です。この現象は、ほとんどの場合、紫（時々、緑または青）のぼやけた輪郭として現れます。Zoner Photo Studio 7 では、色と許容差を指定するだけで、このような色収差を簡単に修正することができます。

樽型/糸巻型歪曲収差

[樽型歪曲/糸巻型歪曲] コマンド ([イメージ] → [イメージの欠陥修正]) を使用すると、樽型/糸巻型歪曲収差

を修正することができます。

これら 2 種類の歪曲収差はレンズの欠陥に起因して生じ、特に建築物の写真など、被写体が角ばった写真で目立ちます。このコマンドでは、イメージの“膨張”量または“収縮”量を指定します。“収縮”量を指定した場合、[自動切り取り] チェック ボックスが使用可能になります。このチェック ボックスをオンにすると、イメージの枠が収縮した分だけ自動的に切り取られます。“膨張”量を指定した場合は、このチェック ボックスは使用できません。[品質] オプションでは、処理後のイメージの品質を指定します。低い値 ([Nearest neighbor]) を設定するとプレビューの表示速度が速くなります。したがって、微調整を行ってプレビューをすばやく確認するときは低い値を設定し、実際に適用するときは高い値 ([Bicubic]) を設定するとよいでしょう。

この修正コマンドは、元の切り取っていない写真に対して使用することをお勧めします。歪曲収差は元の写真の中心から広がり、切り取り済みの写真ではその中心がずれています。中心がずれた写真に対してこのコマンドを使用しても適切な結果は得られません。

ビネット

[ビネット] コマンド ([イメージ] → [イメージの欠陥修正]) を使用すると、写真からビネット (口径蝕) を取り除くことができます。

“ビネット”とは、レンズの中心と周辺で光量が異なるときに生じる現象です。この現象は、高ズーム レベル、長い露出時間、またはスキャンと関連して起こります。結果として、写真の周辺部分が暗くなります。極端な場合は、配水管を覗いたときのように見えます。

このコマンドでは、自動アンチビネット効果の強度、および最終的なガンマ補正値を設定し、必要に応じて、コントラスト強調および色維持のオプションのオン/オフを切り替えます。

インターレース

[インターレース] コマンド ([イメージ] → [イメージの欠陥修正]) を使用すると、イメージからインターレースを取り除くことができます。

従来、デジタル ビデオ カメラやその他のビデオ機器ではインターレース ショットを扱っています。インターレース ショットには、イメージの奇数行または偶数行のみが含まれます。これらのインターレース ショットで構成されるイメージは、まったく異なる 2 つの連続したショットの組み合わせになります。実際、シーンが変わった場合やアクション シーン時には大きな問題となります。極端なことをいえば、このようなイメージではまばたきすることも問題となります。Zoner Photo Studio では、インターレースが含まれるイメージを編集できるようになっています。[奇数行を維持する] オプションでは、維持する行を指定します (このチェック ボックスをオフにすると、偶数行が維持されます)。[方法] オプションでは、新しい行の作成方法を指定します。[補間] では含めるべき行を予測して新しい行を作成します。[重複] では他の行セットを複製します。[転置] では両方のセットを維持してそれらを転置します。

イメージの効果

Zoner Photo Studio のエディタまたはブラウザ ウィンドウでは、イメージに各種効果を設定することができます ([イメージ] → [効果])。ただし、ブラウザ ウィンドウで操作した場合、変更内容は元のファイルに強制的に適用されます。つまり、既存のファイルを上書きするかどうかを確認するメッセージは表示されません。そのため、各種効果の設定に慣れるまでは、エディタで操作することをお勧めします (エディタでは、ファイルを上書きする前に確認メッセージが表示されます)。また、元のイメージのバックアップを取っておくことも強くお勧めします。

グレースケールへの変換

状況によっては、カラー写真を白黒写真に変換したほうがよい場面もあるでしょう。その場合は、[グレースケール] コマンド ([イメージ] → [効果]) を使用します。このコマンドでは、イメージをグレースケールに変換する方法を以下の中から選択します。

- ・ **グレースケール**—3 種類の色チャネルすべてが使用されます。各色チャネルの使用される割合は、人間の目に

よる光の標準的解釈を反映したものになります。この方法は写真に適しています。

- **非彩色**—イメージから色チャンネルを削除します。
- **アドバンスト**—複雑な変換方法です。[グレースケール] を使用した場合と同程度の結果が得られますが、処理速度は遅くなります（より複雑な計算を使用しているため）。
- **チャンネルの平均**—3 種類の色チャンネルの平均値が各ピクセルで計算されます。
- **チャンネルの最大**—出力の色を計算する別の方法です。
- **赤チャンネル**—赤チャンネルだけが使用されます。
- **緑チャンネル**—緑チャンネルだけが使用されます。
- **青チャンネル**—青チャンネルだけが使用されます。
- **カスタム**—各チャンネルをどれくらいの割合で強調するかを独自に指定することができます。チャンネルの割合を指定するには、[ソース チャンネル] コントロールを使用します。[ノーマル化] チェック ボックスをオンにすると、割合 (%) の合計が正確に 100% になります。

チャンネルの混合

[チャンネルの混合] コマンド ([イメージ] → [効果]) を使用すると、各 RGB 色チャンネルを調整することができます。このコマンドの主な目的は、元の色チャンネルの色を新しい割合で混合することで、イメージの全体的な色を変更することです。特に、不適切に混合されたチャンネルを持つイメージを修復する場合、色バランスを高度に編集する場合、または赤外線写真の色を再構成する場合に使用すると便利です。赤外線写真を扱う場合は、赤チャンネルが際立って目立つことから、イメージをグレースケールに変換するか、より自然に近い色を出すために赤チャンネルと青チャンネルを反転させることをお勧めします。

[ソース チャンネル] オプションの最初の 3 つのコントロールでは、各チャンネルの低い値をどの程度適用するかを定義します。最後の [オフセット] コントロールでは、指定したチャンネルの全体的な強化度または弱体化度を設定します。[チャンネル] ドロップダウン リストで [グレースケール] を選択すると、グレースケールへの変換モードに切り替わります。ここでは、[グレースケール] コマンドとは異なり、各色チャンネルにマイナスの値を設定することができます。

古い写真

この効果を設定するには、[古い写真] コマンド ([イメージ] → [効果]) を使用します。

この効果では、イメージはアンティーク風またはセピア風に見えます。このコマンドでは、イメージの“年齢”を設定します。

爆発

この効果を設定するには、[爆発] コマンド ([イメージ] → [効果]) を使用します。

この効果では、イメージは曇った窓ガラスに掲げられているように見えます。このコマンドでは、効果の強度を設定します。

油絵

この効果を設定するには、[油絵] コマンド ([イメージ] → [効果]) を使用します。

この効果では、イメージは油絵用の筆で描かれたように見えます。このコマンドでは、効果の強度を設定します。

波

この効果を設定するには、[波] コマンド ([イメージ] → [効果]) を使用します。

この効果では、イメージは円形波の水面に映っているに見えます。このコマンドでは、効果の強度を設定します。

鉛筆描き

この効果を設定するには、[鉛筆描き] コマンド ([イメージ] → [効果]) を使用します。

この効果では、イメージは鉛筆描きされたように見えます。このコマンドでは、効果の強度を設定します。

ピクセル化

この効果を設定するには、[ピクセル化] コマンド ([イメージ] → [効果]) を使用します。

この効果では、イメージをブロック化して、品質を低減します。このコマンドでは、ブロックの幅 (ピクセル サイズ) を設定します。

浮き彫り

この効果を設定するには、[浮き彫り] コマンド ([イメージ] → [効果]) を使用します。

この効果では、イメージは型押ししたように見えます。[非彩色] チェック ボックスをオンにすると、イメージは単一の非彩色で描かれます。効果の強度と “光源” の方向を変更することもできます。

輪郭検出

この効果を設定するには、[輪郭検出] コマンド ([イメージ] → [効果]) を使用します。

この効果は伝統的なビットマップ効果です。このコマンドでは、効果の強度を設定します。

ネガ

この効果を設定するには、[ネガ] コマンド ([イメージ] → [効果]) を使用します。

このコマンドでは、RGB (色) チャンネルを反転して、イメージのネガを作成します。

イメージの操作に関するその他のコマンド

テキストのオーバーレイ

テキストのオーバーレイ機能は、用途は個人によってさまざまですが、一般的に写真上に目に見える形で著作権データを配置するために使用します。この機能呼び出すには、[イメージ] メニューの [その他] で [テキスト オーバーレイ] コマンド (Ctrl+T) をクリックします。

[テキスト] ダイアログ ボックスでは、写真上に配置するテキストを入力し、そのフォント、スタイル、配置場所、透過性などを設定します。テキストの一部として変数テキストを使用することもできます。変数テキストを使用すると、写真ごとに異なる EXIF データや同類の情報を含めることができます。たとえば、写真の撮影日などの情報が該当します。変数テキストの詳細については、後述の「変数テキスト」を参照してください。

なお、テキストのオーバーレイ機能は、ファイルを一括で変換するための [バッチ変換] ダイアログ ボックスにも用意されています。このダイアログ ボックスは、ブラウザ ウィンドウで、[管理] メニューの [バッチ変換] (Ctrl+Q) をクリックすると表示されます。

警告

一度イメージ上に追加したテキストは変更したり、削除したりすることはできません。

イメージのオーバーレイ

この機能呼び出すには、[イメージ] メニューの [その他] で [イメージ オーバーレイ] コマンド (Ctrl+Shift+T) をクリックします。この機能は、主に、写真に小さいロゴや撮影者の署名を追加するために使用します。

[イメージのオーバーレイ] ダイアログ ボックスでは、追加するイメージを選択し、その配置場所や透過性 (GIF または PNG 形式のイメージを追加する場合) などを設定します。

エンベロープ

この機能呼び出すには、エディタまたはブラウザ ウィンドウで、[イメージ] メニューの [その他] で [エンベロープ] コマンドをクリックします。

このコマンドを使用すると、選択したイメージを、ハート、風船、枠などの事前に定義されたさまざまな型に切り取ることができます。選択したエンベロープは、クッキーの抜き型のように動作し、中の部分だけが維持されます。[エンベロープ] ダイアログ ボックスには、切り取り用の型を選択できるだけでなく、背景色を設定したり、切り取り部分の色を周囲に向かって徐々にぼやけさせていくためのオプションも用意されています。

エンベロープを使用すると、“愛” や “平和” などのテーマでイメージを切り取ったり、枠で装飾したりすることができます。白黒とカラーのどちらを使用してもかまいません。また、必要に応じて、エンベロープのサイズ ([スケール]) と位置 ([位置]) を変更することもできます。背景色を設定するには、[色] オプションを使用します。周囲に向かってぼかし効果を適用するには、[ぼかし] オプションを使用します。

カスタム エンベロープ

使用可能なエンベロープは、プログラムで事前に定義されているものに限定されるわけではありません。エンベロープ ファイルは、Zoner Photo Studio 7 のインストール先の [Envelopes] フォルダに格納されています。白黒エンベロープは、1024 × 768 ピクセルの GIF イメージと 60 × 45 ピクセルのプレビュー イメージ (プレビューも GIF 形式) で定義されています。カラー エンベロープは、アルファ チャンネル (透過性) 付きの PNG イメージとそのプレビュー (プレビューも PNG 形式) で定義されています。

したがって、この定義方法とファイルの番号付けに基づいて、独自のエンベロープ ファイルを [Envelopes] フォルダに追加すれば、自動的にプログラムの [エンベロープ] リストに表示されるようになります。エンベロープを描画する際は、たとえば Zoner Draw 4 を使用することができます (描画後のエンベロープは GIF 形式または PNG 形式でエクスポートします)。なお、[Envelopes] フォルダには、カスタム エンベロープを作成するためのサンプルの Zoner Draw ファイル (envelope.zmf) も含まれています。

枠のフェード

写真をより魅力的に見せるためにフェード枠を作成するには、[イメージ] メニューの [その他] で [枠フェード] コマンドをクリックします。[対称] チェック ボックスのオン/オフを切り替えることで、上下左右の枠が対称になるように設定することも、それぞれ別々に設定することもできます。[透過度] コントロールでは、イメージの枠の透過度を設定します。[色] オプションでは、イメージの枠の背景色を設定します。

ソフト シャドウ

ソフト シャドウ効果を適用すると、イメージ背面の上下左右にぼかしのかった影が配置されます。この機能の呼び出すには、[イメージ] メニューの [その他] で [ソフト シャドウ] コマンドをクリックします。[ソフト シャドウ] ダイアログ ボックスでは、影の水平/垂直オフセット (ピクセル単位) を設定します。[ぼかし] コントロールでは、影に適用するぼかしの強さを設定します。[透過] コントロールでは、背景色 ([背景色]) に対する影の色 ([影の色]) の透過性を設定します。

3D ボタン

イメージの枠に明るい部分と暗い部分を作成することで、プログラムの “3D ボタン” と同じようなイメージを作成することができます。3D ボタンの効果を適用するには、[イメージ] メニューの [その他] で [3D ボタン] コマンドをクリックします。なお、イメージを “3D ボタン” に変換することは、イメージが 3 次元に見えるようにその端を編集することを意味します。

切り取り指定

この機能では、切り取りサイズを正確な数値（ピクセル）で指定することができます。特に、事前に条件を定義して、多くの写真を一括で切り取る場合に効果的です。この機能を呼び出すには、ブラウザ ウィンドウで、[イメージ] メニューの [その他] で [切り取り指定] コマンド (Ctrl+Shift+W) をクリックします。

イメージのサイズ変更

イメージで作業していると、公開用に縮小版が必要になることもあるでしょう。イメージのサイズを変更するには、[イメージ] メニューの [イメージ サイズ変更] コマンド (Ctrl+E) を使用します。[イメージをリサンプリングする] チェック ボックスをオフにすると、イメージのサイズを変更しても、イメージのメタデータ内の DPI 値が減少するだけで、ピクセル数は変わりません。DPI とは、イメージを表現するために使用する 1 インチあたりのドット数です。必要とされる DPI 設定は各用途によって異なります。たとえば、モニターでは 96 DPI で十分ですが、印刷時には 150 DPI 以上が推奨されます。DPI を適切に設定するには、出力方法に関する十分な知識が必要になります（最適な DPI 値は、プリンタの品質や使用している用紙などの要素によって異なるため）。

イメージをリサンプリングすると、イメージのピクセル数が増加または減少し、それに伴いイメージのファイル サイズ（バイト）も増加または減少します。また、幅と高さを指定することもできます。[比率を維持] チェック ボックスをオンにすると、幅または高さのいずれかの値を入力すると、もう一方の値が自動的に設定されます。[シャープ化] オプションは、イメージを縮小することで生じるイメージ データの喪失に関する設定です。イメージを大幅に縮小すると、イメージ データの詳細情報が失われることとなります。この現象の影響を緩和するために、このオプションを使用して、出力イメージの鮮明さを制御します。また、適したリサンプリング方法（[方法]）を選択することも重要になります。各リサンプリング方法の詳細については、後述の「リサンプリング方法」を参照してください。

[イメージのみ保存（情報なし）] チェック ボックスをオンにすると、出力イメージには EXIF データやその他のメタデータ（ファイル内に格納された、イメージに関するテキスト情報）は保存されません。イメージを縮小してファイル サイズ（バイト）を減少させることだけが目的であれば、このチェック ボックスをオフにするとよいでしょう。

複数のイメージのサイズをまとめて変更する必要がある場合は、[詳細サイズ変更] コマンドを使用したほうが通常は良い結果が得られます。

詳細なサイズ変更

ブラウザ ウィンドウまたはエディタで、[イメージ] メニューの [詳細サイズ変更] コマンド (Shift+E) をクリックすると、[詳細なサイズ変更] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスには、以下の 3 種類のサイズ変更オプションが用意されています。

- **カスタム サイズ**
- **比率を維持** — [幅] または [高さ] の各チェック ボックスをオンにして、フィールドに値を入力します。
 - **枠を追加** — 指定したサイズが元の縦横比と一致しない場合は、イメージは縮小され、余った領域は [枠の色] オプションで指定した色で塗りつぶされます。
 - **伸縮** — イメージは、元の縦横比を無視して、指定したサイズに引き伸ばされます。
- **サイズ変更と切り取り** — 縦または横の一方のサイズを基準にして、もう一方が切り取られます。
- **比率** — イメージは、元の縦横比を維持したまま、拡大または縮小されます。

ダイアログ ボックスの右下には、選択したオプションに基づいて処理した後のイメージのサイズが表示されます。

リサンプリング方法

Zoner Photo Studio には、多様なリサンプリング方法が用意されています。それぞれの方法では、新しいイメージでのピクセル値の設定方法、および元のイメージから利用するピクセル数が異なります。それぞれ利点と欠点があり、“すべ

て”に適したフィルタを設定することは不可能です。そのため、フィルタを選択するときは、その用途や元のイメージの特性を考慮する必要があります。

リサンプリングの 1 つの特徴として、出力イメージの“鮮明さ”への影響が挙げられます。一部のリサンプリング方法（たとえば、Bicubic、Supersampling）を使用すると、イメージの縮小時にいくらかぼやけが生じてしまいます。そのため、これらの方法を使用した後は、イメージの鮮明さを少し上げるとよいでしょう。

- **Nearest neighbor** — 最も単純で速い方法です。ピクセルの補間を行わず、代わりにイメージの単一ピクセルを使用して各ピクセルを作成します。この方法は、写真には適していませんが、非常に細い線の図面には最も効果があります。
- **Bilinear** — 最も単純な補間方法です。近接の 4 ピクセルの平均値を使用します。この方法は、処理速度が速く、一般的にイメージを縮小する場合に適しています。
- **Bicubic** — 最も高度な補間方法です。近くの 16 ピクセルを使用し、値を三次曲線で補間します。引き伸ばしおよび縮小のどちらにも適しています（後で鮮明さを補正する必要があります）。
- **Hermite** — 別の種類の補間曲線を使用します。近接の 4 ピクセルを使用します。
- **Bell** — 非常に“ソフトな”イメージを生成します。ノイズが含まれるイメージに適しています。
- **Mitchell** — 処理速度と品質の両面を平均的にカバーしている優れた方法です。近くの 16 ピクセルを使用し、“鮮明さの自動補正”効果を持っています。
- **Lanczos** — 最もコンピュータ的要求の強い方法です。ピクセルは実際の情報分布をシミュレートした特別な曲線で補間されます。元のイメージからは 36 ピクセルが出力ピクセルごとに使用されます。この方法は、強力な“鮮明さ自動補正”効果を持っており、特に、イメージを引き伸ばす場合に適しています。
- **Supersampling** — 主にイメージを縮小する場合に適しています。イメージの縮小時に失ったすべてのピクセルの加重平均を使用します。この方法は、イメージのすべてのピクセルを扱うので写真には最適です。イメージにいくらかぼやけが生じてしまうという欠点がありますが、これは後で鮮明さを上げることで簡単に解消できます。

キャンバスと枠

キャンバスと枠を調整するには、[イメージ] メニューの [キャンバスと枠] (Ctrl+Shift+B) コマンドを使用します。

エディタでイメージのキャンバスを広げるということは、指定した色（通常は白）の領域を特定のピクセル数だけイメージの周囲に追加することを意味します。[対称] チェック ボックスをオン（デフォルトではオンになっています）にすると、左側の値を設定するだけで残りの値も自動的に対称に設定されます。また、キャンバス内外に枠を作成することもできます。ただし、追加したキャンバスの領域よりも太い枠を作成することはできません。したがって、枠を太くする場合は、まずキャンバスを調整する必要があります。

なお、キャンバスと枠の追加機能は、ファイルを一括で変換するための [バッチ変換] ダイアログ ボックスにも用意されています。このダイアログ ボックスは、[管理] メニューの [バッチ変換] (Ctrl+Q) をクリックすると表示されます。

別のファイル形式への変換

ブラウザ ウィンドウで、[イメージ] メニューの [ファイル フォーマット変換] コマンド (Ctrl+Shift+F) をクリックすると、ファイル形式を変換するための [フォーマット] ダイアログ ボックスが表示されます。ダイアログ ボックスの左下には、変換後のファイル形式を指定するための [フォーマット] ドロップダウン リストが配置されています。ここで選択したファイル形式に応じて、ダイアログ ボックスの残りのオプションが変わります。ダイアログ ボックスの右下には、色の濃さ、色の変換（必要に応じて）、出力パレット（必要に応じて）を設定するためのオプションが配置されています。

プログレッシブ—ファイルは、読み込み中に少なくともその一部が表示されるように保存されます。このオプションは、インターネットに公開する場合にのみ役立ちます。

JPEG 品質—特別な不可逆圧縮を使用する度合いを指定します。このテクノロジーは効率的に写真を保存することができるよう開発されました。圧縮の度合いによって、イメージ情報の喪失量（イメージの劣化具合）が変わります。高品質の写真の場合 90 くらいの値を指定します。サムネイルや同種のイメージの場合 75 くらいの低い値を指定します。指定した設定での圧縮品質はイメージの特性によって異なります。そのため、必ず出力イメージのプレビューを見て品質を確認するようにしてください。

イメージは、以下のファイル形式での保存が可能です。

- **GIF** — 最大 256 色のパレットのみの形式です。可逆 LZW 圧縮を使用しています。グラフィックスをインターネット用に保存する場合に適しています。
- **JPEG** — サポートされている色スキームは TrueColor とグレースケールのみです。可逆圧縮を使用しています。写真を保存する場合に適しています。
- **PNG** — パレットと非パレットを含む、最近広く普及している形式です。LZW よりも優れた可逆 ZIP 圧縮を使用しています。イメージを詳細に処理する場合に適していますが、EXIF はサポートしていません。
- **TIFF** — 旧来の DTP 形式です。ビットマップ形式のほとんどオプションを含みます。圧縮不可にするか、LZW、ZIP、JPEG、または RLE 圧縮を使用することができます。パレットと非パレットのカラー ストレージと CMYK カラーを含みます。
- **TGA** — 旧来の形式です。
- **BMP** — 圧縮を行わない最も広く普及している Microsoft Windows 形式です。ほとんどのソフトウェアが BMP をサポートしているビットマップ イメージに対応しています。
- **WPG** — Word Perfect Graphics の略です。TrueColor イメージはサポートしていません。
- **BMI** — パレットと非パレットを含む、Zoner が開発した形式です。ZIP 圧縮を使用しています。
- **PCX** — RLE 圧縮を使用しています。単純な線の描画イメージにのみ適しています。

イメージをエディタで開いている場合、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] コマンド (Ctrl+Shift+S) を使用すれば、上記のいずれかの形式で保存することができます。

写真の整理

ファイルの操作

Zoner Photo Studio は、多くの面において、Windows エクスプローラと同じように動作します。

たとえば、以下の操作が該当します。

- フォルダ間でのファイルのコピーと移動にドラッグ アンド ドロップを使用
- ファイルのコピーと移動にクリップボードを使用
- コピーと移動のショートカット コマンド
- 新しいフォルダの作成
- ファイルとフォルダの削除
- ファイルとフォルダの名前変更
- ファイルのプロパティ ダイアログ ボックスの表示

コンテキスト メニュー

ブラウザ ウィンドウでファイルを右クリックすると、Windows エクスプローラと同じようなコンテキスト メニューが表示されます。

ファイルの選択 (ハイライト)

ブラウザ ウィンドウでは、Windows エクスプローラと同じようにファイルを選択することができます。その他のファイル選択オプションは、[管理] メニューの [選択] サブメニューにまとめられています。

ファイル/フォルダ ツリーとアルバム

デジタル写真を扱うプログラムの多くは、写真を表示するときに 2 種類の基本的な方法のうちいずれかを採用しています。1 つはファイル/フォルダ ツリーを表示する方法、もう 1 つはインデックス付きファイルを含むカタログを表示する方法です。それぞれの方法には、そのときの状況次第で、利点も欠点もあります。Zoner Photo Studio では、これら両方の方法を採用しています。イメージの通常の編集作業では、アルバムやそれに似た方法で作業する必要はまったくありません。しかし、イメージを細かく分類したり整理したりする場合、特に外部の（取り外し可能）メディアで作業する場合は、メディア アーカイブというイメージ データベースで作業するほうが快適です。メディア アーカイブはアルバムとは異なりますが、同じような利点が多数あります。

基本的なファイル操作

[管理] メニューには、マルチメディア データの管理に関するすべての機能が用意されています。たとえば、新しいフォルダやアルバムを作成するための機能、Windows クリップボードの従来機能（コピー、貼り付け、など）、ファイルを効率よく選択するための機能（すべて選択、選択を反転、ワイルドカードを使用した選択、など）が該当します。

検索

[管理] メニューの [検索] コマンドを使用すると、ファイル名またはその一部、作成日、最終更新日、サイズ、タイトル、作成者、説明、レート、またはキーワードで検索することができます。検索結果は、「検索結果 <日付> <時刻>」という名前の特別なアルバムとして保存されます。[ユーザ設定] ダイアログ ボックス（[設定] -> [ユーザ設定]）の [フォルダ] カテゴリを使用して、Zoner Photo Studio の特別なフォルダの場所を設定することができます。検索結果のアルバムは、この特別なフォルダの 1 つに保存されます。

メディア アーカイブ内を検索する場合は、その中で検索範囲を指定することができます。

アルバム

Zoner Photo Studio 7 のアルバムは、特定のファイルへのショートカットを含む標準的な Windows フォルダと変わりはありません。

すべてのアルバムが [アルバム] フォルダに保存されます。[アルバム] フォルダは、デフォルトでは、[ZPS7] フォルダ（Windows の [マイ ドキュメント] フォルダの下）に含まれますが、この場所は自由に変更することができます（[設定] -> [ユーザ設定] -> [フォルダ]）。

アルバムは通常のフォルダと同じように動作し、その中からイメージを開いて編集することができます。ただし、アルバム内のイメージを削除した場合は、ショートカットだけが削除され、元のファイルは維持されます。同様に、アルバム内のイメージを別のフォルダにコピーまたは移動した場合も、元のファイルには影響ありません。

アルバムの有効性

イメージをトピック別に整理する場合、たとえば、特定のイベントやテーマ、または特定の日付別に写真を整理する場合、アルバムを使用すると便利です。子供の写真だけを 1 つの場所にまとめて保存しておく場合など、今までは、対象のすべての写真ファイルのコピーを作成し、それらを特別なフォルダに移動する必要がありました。これでは、ディスクスペースが無駄になるだけでなく、整理にも手間がかかります。Zoner Photo Studio では、アルバムを好きな数だけ作成して、その中には写真ファイル自体ではなく、ショートカットを含めることができます。

このショートカットは標準的な Windows ショートカットとして動作するため、アルバムは Zoner Photo Studio 7 に限らずその他のアプリケーションでも使用することができます。

メディア アーカイブ

Zoner Photo Studio 7 では、“アーカイブ” と呼ばれる外部メディアのカタログを取り扱うことができます。つまり、ローカル ディスクまたは取り外し可能メディア（通常、CD/DVD）上の写真をインデックス付けして、デジタル アーカイブとして保存することができます。この際、インデックス付きイメージのサムネイルとメタデータ（EXIF データなど）がデータベースに格納されます。インデックス付けで作成されたカタログでは、インデックス付けしていないファイルと比較して、検索が容易になります。アーカイブを使用すると、イメージを写真の情報（[詳細] 表示モード）別に簡単に並べ替えることができます。

オフラインとオンラインの動作

取り外し可能メディアがオフライン（存在しない）の場合は、アーカイブ時に指定のメディアで選択したサイズのサムネイルが表示されます。そのため、アーカイブ済みメディアがオフラインの場合でも、アーカイブ内のファイルの見分けは可能です。アーカイブ内のファイルをエディタで開こうとすると、該当するアーカイブ済みメディアを挿入するように促すメッセージが表示されます。アーカイブ内のファイルとフォルダのオンライン/オフライン ステータスは、緑のチェックマーク（オンライン）または赤の x マーク（オフライン）で示されます。

アーカイブとディスク スペース管理

上述のとおり、アーカイブ内のイメージのサムネイル/プレビューのサイズはアーカイブの作成時に定義することができます。サムネイル サイズに [通常]、プレビュー サイズに [640 × 480] を指定した場合、データベースのサイズは、CD に含めたファイルの数に応じて、最大で 20 MB 必要になります。

メディアの追加

[メディア追加] コマンド（[管理] → [メディア アーカイブ]）を使用すると、新しいメディアをメディア アーカイブに追加することができます。最初の手順では、メディアを選択（または [参照] オプションを使用してパスを選択）し、空のフォルダを含めるかどうかを指定します。2 番目の手順では、データベースに含めるファイルの種類を指定します。

3 番目の手順では、アーカイブに追加するフォルダを選択します。デフォルトでは、指定した種類のファイルが少なくとも 1 つ含まれているすべてのフォルダが追加されます。これらのフォルダには、イメージ アイコンが付いています。指定した種類のファイルが含まれていないフォルダ、またこれらのファイルがサブフォルダにも含まれていないフォルダは、作成されたアーカイブには表示されません。これらのフォルダのフォルダ名は黒い文字で示されます。一方、該当するファイルがサブフォルダも含め 1 つでも含まれているフォルダのフォルダ名は青い文字で示されます。サブフォルダおよび空のフォルダを含めるかどうか指定するには、[サブフォルダを含む] と [空のフォルダを含む] の 2 つのチェック ボックスを使用します。

4 番目と 5 番目の手順では、サムネイルとプレビューに関する設定をそれぞれ行います。サムネイルはブラウザ ウィンドウのメイン ペインで使用され、プレビューはブラウザ ウィンドウのプレビュー ペインおよびスライドショーで使用されます。最後の手順で、メディア名を入力して [完了] ボタンをクリックすると、インデックス付け処理が開始されます。

メディアの名前変更

[メディア名の変更] コマンド（[管理] → [メディア アーカイブ]）を使用すると、既存のアーカイブの名前を変更することができます。

メディアの削除

[メディア削除] コマンド（[管理] → [メディア アーカイブ]）を使用すると、データベースから既存のメディアを削除することができます。多数のメディアを削除した後、または大きなプレビューが保存されたメディアを削除した後は、メディア アーカイブのメンテナンスを実行することをお勧めします。

メディア アーカイブのメンテナンス

[メディア アーカイブ メンテナンス実行] コマンド ([管理] → [メディア アーカイブ]) を使用すると、メディア アーカイブをメンテナンス処理を実行することができ、メディア アーカイブの処理速度の向上、およびデータベース サイズの削減につながります。データベースに追加した情報を削除した場合、データの“フラグメンテーション”と呼ばれる望ましくない現象が起こります。メンテナンス処理（デフラグメンテーション）を実行することで、この現象は解消されます。この処理は、Zoner Photo Studio を次回起動したときに開始されます。処理中は、Zoner Photo Studio または Zoner Editor のその他のウィンドウを必ず閉じて、アーカイブにアクセスするプログラムが実行されていないことを確認してください。特に、ネットワーク上のすべてのワークステーションから 1 つの Zoner Photo Studio にアクセスしている場合は注意が必要です。

大きなプレビューの削除

[大きなプレビューの削除] コマンド ([管理] → [メディア アーカイブ]) を使用すると、アーカイブ データベースでのメモリ必要量を抜本的に削減することができます。データベース エンジン (Microsoft JET を使用) では、データベース ファイルのサイズは 2 GB までに制限されています。たとえば、600 枚の写真が保存された 1 枚の CD を、サムネイル サイズを標準、大きなプレビューのサイズを 640 × 480 に設定してアーカイブに追加した場合、データベースでは 20 MB のスペースが必要になります。したがって、100 個のメディアまでしか取り扱うことができません。

一般的に、メディア アーカイブのメンテナンス処理は、大きなプレビューを削除するたびに実行する必要があります。

新しいアーカイブの作成

[新しいアーカイブの作成] コマンド ([管理] → [メディア アーカイブ]) を使用すると、ブラウザ ウィンドウで現在アクティブなパスに新しいメディア アーカイブを作成することができます。この方法で作成したアーカイブは相互に接続されていないため、Zoner Photo Studio での操作 (たとえば、検索) は現在アクティブなアーカイブだけに適用されます。アクティブなアーカイブがない場合は、操作はデフォルト アーカイブに適用されます。

ファイルの実体化

アルバムおよびアーカイブには、イメージ自体の代わりに、イメージへのショートカットのみが含まれています。[管理] メニューの [実体化] コマンドを使用すると、ショートカットを“実体化”、つまり元のイメージを指定の場所にコピーすることができます。

CD 編集

Zoner Photo Studio には CD パーナーとしての機能も備わっており、イメージを CD (または DVD) に直接焼き込むことができます。Zoner Photo Studio からイメージを CD に焼き込む方法は 2 種類あります。選択したファイルを直接焼き込むか、[新しい CD 編集] コマンド ([管理] → [新規オブジェクト]) を使用して CD 編集を作成するかのいずれかです。CD 編集はアルバムと類似しており、ファイルやフォルダは実際のイメージへのショートカットとして保存されます。Zoner Photo Studio で CD 編集を表示すると、その下に焼き込みツールバーが表示されます。このツールバーには、[書込み] と [サイズを再計算] の 2 つのボタンが配置されています。CD 編集は、必要に応じて何度でも、編集したり、CD に焼き込んだりすることができます。

データのインポートとエクスポート

ファイル リストの生成

[ファイル リストの生成] コマンド ([管理] → [データ インポート/エクスポート]) を使用すると、ファイル名のリスト生成することができます。リストに含めるファイル プロパティの種類やリストのフォーマットは自由にカスタマイズすることができます。リストに含めるファイルを選択したら、リストのフォーマットと出力形式を指定します。フォーマットの詳細および編集方法については、「変数テキスト」を参照してください。

[HTML テーブルの生成] チェック ボックスをオンにすると、リストは HTML ファイル (Web 上で使用されるファイル形式) として生成されます。指定したデータはシンプルなテーブルに整理されて表示されるので、他のプログラムにインポートしたり、さらに処理を加えたりする上で適しています。[ファイル リストの生成] ダイアログ ボックスの [フォーマット文字列] フィールドで “[TAB]” を指定すると、その指定位置が出力ファイルの列の境界となります。

処理が完了したら、出力ファイルは指定のファイル形式に関連付けられたプログラムで自動的に開くようになっています。テキスト ファイルの場合はテキスト エディタ (通常は、メモ帳)、HTML ファイルの場合は Web ブラウザ (通常は、Internet Explorer) で開きます。

説明のエクスポートとインポート

プログラムの中には、イメージに関する 1 行の簡単な説明を生成し、特別なファイルに保存するものもあります。これらのファイルは、一般的に “description”、“0index.txt”、“files.bbs” といった名前で、イメージと同じフォルダに保存されます。[説明のエクスポート] または [説明のインポート] コマンド ([管理] → [データ インポート/エクスポート]) を使用すると、これらの説明をファイルにエクスポートしたり、イメージの EXIF データにインポートしたりすることができます。エクスポートまたはインポートの処理では、[タイトル] または [説明] のいずれかのフィールドを説明として使用します。

説明をエクスポートすると、ファイルの元の説明は上書きされます。[残りのファイルの説明を維持] チェック ボックスをオンにすると、選択したファイルのみの説明が書き換わり、他のファイルの説明はそのまま保持されます (チェック ボックスをオフにすると、選択していないファイルの説明は保持されません)。

[エクスポートしたファイルに隠しファイル属性を設定] チェック ボックスをオンにすると、ファイルに “隠しファイル” の属性が設定され、他のほとんどのプログラムから見えなくなります。

ACDSee™ 5 からの情報のインポート

Zoner Photo Studio では、ACD™ Systems 社の ACDSee™ 5 からの情報を簡単にインポートできるようになっています。ACDSee の形式で保存されたイメージ情報をエクスポートするには、ACDSee の [Tools] メニューから [Database]、[Export Database Info] の順にクリックします。次に、[Generate one database file per folder] または [Generate one database file] のいずれかを選択します。ACDDatabase.xml という名前の 1 つまたは複数のファイル (選択したオプションによって異なります) が、選択したフォルダ、およびそのすべてのサブフォルダに作成されます。これらのファイルには、説明、コメント、キーワード、作成者の名前、および日時が記録されています。

この情報を Zoner Photo Studio にインポートするには、ブラウザ ウィンドウで [ACDSee(tm) からのインポート] コマンド ([管理] → [データ インポート/エクスポート]) をクリックします。次に、インポート元のファイルとインポート対象の情報を選択します。インポートすると、ファイルの EXIF データの関連セクションが新しい値で上書きされます (キーワードを除く)。[新しいキーワードを元のものとは結合する] チェック ボックスをオンにすると、新しいキーワードが古いキーワードと結合されます。なお、コンマ、セミコロン、改行はキーワード セパレータとして扱われます。

キーワードのスキャン

[キーワード検索] コマンド ([データ インポート/エクスポート]) では、EXIF キーワードをファイルから読み込むことができます。メディア アーカイブを選択すると、その中の写真に割り当てられているキーワードのリストが読み込まれ、Zoner Photo Studio のデータベースに追加されます。Zoner Photo Studio では、キーワードをイメージ ファイルの EXIF データに直接保存します。そのため、イメージ ファイル自体が破損しない限り、イメージ ファイルを別の場所に移動して

も、キーワードは失われません。

この機能は、たとえば Zoner Media Explorer 5 または Zoner Photo Studio 6 からアップグレードする場合に使用することをお勧めします。アップグレード後の Zoner Photo Studio でも、今まで使用していたキーワードすべてが利用できるようになります。

イメージのレート

Zoner Photo Studio には、イメージにレートを付けるための機能も備わっています。イメージにレートを付けておくと、そのレートに基づいてイメージ（たとえば、特定の品質レベル以上のイメージ）を検索することができます。品質レートは、[イメージ情報] ダイアログ ボックス ([管理] → [イメージ情報]) の [画像レート] オプションを使用して 1～5 の範囲で指定します。[なし] を指定すると、写真からレートが削除されます。写真にレートが付いていると、ブラウザ ウィンドウの写真のサムネイル内にレート アイコンが表示されます。このアイコンを右クリックして、レートを変更したり、削除 (-) したりすることもできます。

レートは、ブラウザ ウィンドウの [詳細] モードで表示したり、[検索] ダイアログ ボックス ([管理] → [検索]) の [画像レート] オプションで検索を絞り込むために使用したりすることができます。レートに基づいて検索する場合、検索モードとして、[～ 以上]、[～ 以下]、または [～ と等しい] を指定することができます。

デジタル証明書

デジタル証明書のテクノロジーの主な目的は、指定したイメージの起源と完全性を定めることにあります。イメージの作成者（または、所有者、管理者など）は、個人の証明書をイメージの特性を説明するデータと一緒にイメージに挿入することができます。

イメージに証明書が含まれている場合、ブラウザ ウィンドウでリボン アイコンが表示されます。必要に応じて、証明書付きイメージの信頼性を確認することもできます（たとえば、リボン アイコンをクリック）。証明書付きイメージを変更することもできますが、変更されたという事実は簡単に判別できるようになっています。

デジタル証明書の追加

ブラウザ ウィンドウの [デジタル証明書の追加] コマンド ([管理] → [デジタル証明書]) を使用すると、証明書データとイメージ依存の情報をイメージ ファイルに挿入することができます。この情報は、イメージが署名されたときの状態を記録し、デジタル証明書の確認時に使用されます。使用される証明書は、[ユーザ設定] ダイアログ ボックス ([設定] → [ユーザ設定]) の [証明書設定] の設定によって異なります。

デジタル証明書のチェック

[デジタル証明書のチェック] コマンド ([管理] → [デジタル証明書]) を使用すると、イメージの署名時に格納された“公式の”特性と照らし合わせて、イメージの特性をチェックすることができます。デジタル証明書付きのイメージのサムネイルに表示されるリボン アイコンをダブルクリックしても、このコマンドを実行することができます。

[ユーザ設定] ダイアログ ボックス ([設定] → [ユーザ設定]) の [証明書設定] カテゴリには、証明書確認に関連するその他のオプションが用意されています。[証明書が取り消されていないことを確認] オプションを使用するには、インターネット接続が必要になります。そのため、このオプションはオフにしておくことが賢明です。証明書階層全体の確認を行わない場合は、[署名証明書の取り消しのみを確認] オプションを使用します。

デジタル証明書の削除

[デジタル証明書の削除] コマンド ([管理] → [デジタル証明書]) を使用すると、イメージから証明書を完全に削除することができます。

情報の管理

たいていのデジタル カメラで、イメージに関する補足情報（F 番号、露出、フラッシュ、ズーム レベルなど）がイメージ内に保存されるようになっていきます。これらの情報は、EXIF（Exchangeable Image Format）として保存されます。保存される情報の種類は平均して 20 種類くらいあります。

多くのプログラムで、写真を編集するだけでこれらの情報が失われてしまいます。たとえば、Windows のイメージ ビューアでイメージを回転すると、EXIF データは失われ、元に戻すことはできません。

Zoner Photo Studio 7 では EXIF（最新の EXIF 2.2（EXIF PRINT）を含む）をサポートしています。EXIF 情報はプレビュー ウィンドウを [情報] モードに切り替えると表示されます。

すべての EXIF データと IPTC データの表示

イメージには、EXIF データのほかにも、同種の IPTC データが含まれている場合があります。両方の種類のデータがプレビュー ウィンドウを [情報] モードに切り替えたときに表示されます。情報のすべてのリストは、[イメージ情報] ダイアログ ボックス（[管理] - [イメージ情報]）で [一般情報] を選択すると表示されます。このダイアログ ボックスの情報は、プレーン テキストの表形式でクリップボードにコピーすることができます。鉛筆アイコンの付いた情報は、Zoner Photo Studio で変更することができます。

キーワードと説明

写真には、タイトル、コメント、作成者、キーワードといった補足の識別情報を追加することができます。これらのデータは、たとえば、Zoner Photo Studio の検索やフィルタ機能を使用するときに役立ちます。また、公開ツール（Zoner Photo Studio の印刷とエクスポート機能）で表示したり、テキスト オーバーレイ機能で追加したりすることもできます。

イメージ内のキーワードは、[管理] メニューの [EXIF バッチ編集]（Ctrl+K）コマンドを使用するか、ブラウザ ウィンドウのキーワード パネルを使用して編集することができます。キーワード パネルの詳細については、前述の「キーワード パネル」を参照してください。単一のイメージの情報を編集する場合は、[管理] メニューの [イメージ情報] コマンド（Shift+Enter）を使用することもできます。

情報のバックアップと復元

多くのプログラムで、デジタル写真を編集すると、EXIF や IPTC データ、色プロファイルなどの情報が失われます。

しかし、Zoner Photo Studio を利用することで、イメージのメタデータを失うことなく、それらのプログラムで写真を編集することができるようになります。Zoner Photo Studio では、すべての EXIF と IPTC メタデータ（“マーカ”と呼ばれるトリッキーな EXIF を含む）、および “メーカー ノート” と呼ばれる非標準製造元固有の EXIF データをバックアップと復元が可能です。バックアップを作成するには、[EXIF バックアップの作成] コマンド（[管理] → [情報管理]）を使用します。情報は、イメージと同じ名前（ただし、拡張子は exifbak）の隠しファイルに保存されます。

exifbak ファイルはイメージとペアになっており、サムネイル上に矢印アイコンが表示されます。この矢印アイコンをクリックするか、[EXIF バックアップからレストア] コマンド（[管理] → [情報管理]）または [EXIF バックアップから詳細レストア] コマンド（情報単位で処理可能）を使用すると、作成済みのバックアップから情報を復元することができます。

EXIF プレビューの追加

表示速度を速くするため、EXIF プレビューはサムネイルとして使用されます。ただし、EXIF プレビューが存在し、Zoner Photo Studio の [ユーザ設定] ダイアログ ボックスでこの機能を有効にしている必要があります。

EXIF プレビューを更新しないその他のプログラムでイメージを編集した場合、[EXIF プレビューの追加] コマンド（[管理] → [情報管理]）を使用して、現在の状態を反映する EXIF プレビューを作成することができます。

EXIF マーカ位置の修正

EXIF の仕様として、EXIF ブロックはイメージ ファイルの先頭のブロックにある必要があります。残念ながら、プログラムの中にはこの仕様に準拠していないものもあり、他のプログラムからその EXIF データにアクセスすることができない場合があります。Zoner Photo Studio では、EXIF データが先頭ブロックにないイメージを正しく処理できるだけでなく、EXIF 対応のすべてのソフトウェアからアクセスできるように EXIF ブロックを移動することもできます。この場合、[EXIF マーカ位置の修正] コマンド ([管理] -> [情報管理]) を使用します。

EXIF を使用した日付設定

[EXIF を使用した日付設定] コマンド ([管理] -> [情報管理]) を使用すると、写真ファイルの日付を EXIF に保存されている日付 (写真の撮影日) と一致するように設定することができます。これにより、EXIF データを扱えないプログラムでも撮影日別に写真を並べ替えることができるようになります。

イメージ情報

[イメージ情報] ダイアログ ボックス ([管理] -> [イメージ情報]) には、サイズやファイルの作成日などの基本的な情報が表示されます。このダイアログ ボックスには、EXIF と IPTC のすべての情報のリストも表示されます。さらに、イメージ ファイルのオーディオ ノートを表示したり、再生したりすることもできます。オーディオ ノートは、対応するイメージ ファイル自体 (この場合、大幅にファイル サイズが増加します)、または外部ファイルとして保存することができます。なお、EXIF 規格は、オーディオ ノートの MP3 形式での保存をサポートしていません。

EXIF バッチ編集

[管理] メニューの [EXIF バッチ編集] コマンドを使用すると、EXIF タイトル、作成者、説明、著作権、キーワード、撮影日の情報を一括で編集するためのダイアログ ボックスが表示されます。

名前のバッチ変更

1 つのファイルの名前を変更する方法は、Windows エクスプローラの場合と同じで、ファイルを選択し、そのファイル名をクリックするか F2 キーを押すだけです。しかし、Zoner Photo Studio では、複数のファイルの名前を自動的に変更することもできます。その場合、[管理] メニューの [名前のバッチ変更] コマンドを使用します。

[名前のバッチ変更] ダイアログ ボックスでは、新しいファイル名の作成ルールを設定します。ここでは、以下の変数テキストを使用することができます。これらの変数テキストは、各イメージの実際の値に基づいて新しいファイル名に挿入されます。変数テキストの詳細については、後述の「変数テキスト」を参照してください。

名前	{N}
拡張子	{E}
年	{R}
月	{M}
日付	{d}
時間	{h}
分	{m}
秒	{s}
カウンタ	{C}

日付関連の変数は、[日付の種類] ドロップダウン リストで選択したオプションに基づいて、ファイルの作成日または最終更新日に置き換わります。

ファイルのバッチ変換

Zoner Photo Studio には、選択したイメージ（またはフォルダ内のすべてのイメージ）にさまざまな変換処理を適用するためのダイアログ ボックスが用意されています。このダイアログ ボックスを表示するには、[管理] メニューの [バッチ変換] コマンド (Ctrl+Q) をクリックします。

ダイアログ ボックスは、[フォーマット]、[パス名]、[詳細なサイズ変更]、[編集]、[枠]、[テキスト]、[イメージのオーバーレイ] の 7 つのタブに分かれています。これらのタブは、ファイル形式、パス/ファイル名、イメージ サイズ、色/鮮明さ、キャンバス/枠線、テキストのオーバーレイ、イメージのオーバーレイをそれぞれ一括で変換するためのものです。たとえば、BMP 形式のイメージを JPEG 形式に変換する、最初に数字を含むようにファイル名を変更する、サイズを 800 x 600 に統一する、明るさを 10% 増加する、白いキャンバス、黒い枠線で囲む、著作権テキストを追加する、といった操作を一括で行うことができます。これらの操作は、1 ファイルずつ適用していくことも、すべてまとめて適用することもできます。ダイアログ ボックスの左側には、一括操作の対象となるすべてのイメージのプレビューが表示されます。

各タブの機能の詳細については、それぞれ該当する説明を参照してください。

ICC プロファイルのバッチ割り当て

JPEG と TIFF イメージには ICC プロファイルを割り当てることができます。ICC プロファイルとはイメージの色空間情報です。各種デバイスの色の保存方法は多種多様です。ICC プロファイルを使用すると、異なるデバイスであってもそれらが色管理をサポートしており、正しく調整されていれば、イメージの見た目は同じになります。イメージに ICC プロファイルを割り当てるには、[管理] メニューの [ICC プロファイルのバッチ割り当て] コマンドを使用します。まず ICC プロファイルのパスを選択し、既にプロファイルが含まれているイメージの処理方法を指定します。[既存のプロファイルを上書きする] チェック ボックスをオンにすると、既存のプロファイルは選択したプロファイルで上書きされます。単にプロファイルを割り当てただけではイメージの色は変換されないことに留意してください。

PIM を使用したバッチ拡張

PIM または EXIF Print 情報がイメージ内に格納されている場合、その情報を使用して、イメージを恒久的に拡張させることができます。この機能では、オートコントラスト、鮮明さの補正など、カメラによって保存された情報に基づいて、写真を自動的に補正編集（後処理）することもできます。なお、この機能はブラウザ ウィンドウでのみ使用可能です ([管理] → [P.I.M. を使用したバッチ拡張])。また、色管理を有効にし、イメージに PIM または EXIF Print 情報が含まれている場合にのみ使用可能です。この機能をイメージに適用すると、PIM 情報はイメージから削除されます。

この機能の利点は、写真を Web ページにエクスポートする場合 (Web ブラウザは PIM をサポートしていません)、写真をフォト ラボに送信する場合など、PIM に対応していない環境でも、PIM の恩恵を受けられるようになることです。

ただし、欠点もあります。イメージの sRGB への変換 (表示に最適な色空間) に関する一部の情報が失われます。また、その他の目的 (たとえば、印刷) のために、PIM 拡張していないイメージを使用することが望まれることが多々あります。

公開

Zoner Photo Studio の [公開] メニューには、イメージを公開するためのさまざまなオプションが用意されています。

単一イメージの印刷

単一のイメージを印刷する場合は、エディタで [ファイル] メニューの [印刷] コマンド (Ctrl+P) をクリックし、[印刷] ダイアログ ボックスで各種オプションを設定します。[プリンタ] オプションでは、インストールされているすべてのプリンタの中から目的のプリンタを選択します。ページ枠は、印刷ページの印刷可能領域を最大限に生かすように自動的に設定されます。[プロパティ] ボタンをクリックすると、選択したプリンタの印刷設定ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスの見た目とオプションは、選択したプリンタ、厳密に言えば、プリンタを制御しているソフトウェア (プリンタドライバ) によって異なります。

[ファイルに出力] オプションでは、印刷対象のデータをプリンタ ソケットに送信するか、またはファイルに出力するかを指定します。[印刷部数] オプションでは、印刷部数を指定します。

[イメージ サイズ] グループでは、ページ上のイメージのサイズを設定します。[ページに合わせる (条件)] オプションを選択した場合、選択したページ サイズに正確に収まるように、必要に応じて、枠が追加されるか、イメージの一部が切り取られます。

[枠を追加] では、イメージ全体がページ内に正確に収まるようにサイズが調整されます。

[切り取り] では、白枠は追加せずに、ページの印刷可能領域を最大限に利用して印刷します。ただし、この場合、イメージの一部 (赤で示された部分) が切り取られます。[イメージ DPI による] オプションを選択した場合、サイズは DPI とピクセル単位のイメージ サイズに基づいて計算されます。イメージに DPI 値が保存されていない場合は、標準の DPI 値である 72 が使用されます。TIFF、JPEG、および PNG 形式のイメージにのみ DPI 値は保存されています。[カスタム] オプションを選択した場合は、出力サイズを独自に指定することができます。

[イメージ位置] グループでは、ページ上のイメージの位置を設定します (このグループは、[ページに合わせる (条件)] オプションを選択している場合は有効になりません)。[固定位置] オプションでは、イメージの位置を四隅、四辺中央、または中央のいずれかに設定します。固定位置の設定には、プレビュー ペイン下部の各ボタンを使用することもできます。[カスタム] オプションでは、イメージの位置を独自に指定することができます。

[イメージに合わせて自動的に用紙方向を変更する] オプションでは、イメージがページにちょうど収まるように、必要に応じて、印刷の向き (横向きまたは縦向き) を自動的に切り替えます。

最後の [キャプション] グループでは、イメージにキャプションを追加します。キャプションには、通常のテキストを使用することも、Zoner Photo Studio の変数テキストを使用することもできます。[場所] と [並び] には、それぞれキャプションの配置場所 (イメージの上下いずれか) と並び (中央、左、右のいずれか) を設定します。

その他のダイアログ ボックスと同様で、ここで設定したすべてのオプションは、最後に使用した設定またはデフォルトの設定にいつでも戻すことができます。すべての設定が終了し、[OK] ボタンをクリックすると、印刷が開始します。

複数のイメージの印刷、およびエクスポート

ブラウザ ウィンドウでは、複数のイメージの印刷とエクスポートを 1 つのコマンドから実行することができます。ウィザードの手順に従うだけで、4 種類の基本テンプレートのいずれかに基づいた出力を簡単に作成することができます。複数のイメージを処理するには、まずブラウザ ウィンドウで対象のイメージを選択します。次に、[公開] メニューの [印刷とエクスポート] コマンド (Ctrl+P) をクリックします。

ウィザードの最初の手順では、対象のイメージのリストを再確認することができます。[次回から表示しない] チェックボックスをオフにすると、次回からこの手順を省略することができます。次の手順に進むには、[次へ] をクリックします。

次の手順では、作成するドキュメントの種類を選択します。

- **テンプレート** – 事前に定義された各種テンプレート (テキストのみのものもあれば、グラフィックスを含むものもあります) に写真を配置します。
- **コンタクト シート** – 行や列の数、スペースなど、独自に指定した値に基づいて自動的にレイアウトが調整されます。ヘッダ、フッタ、イメージ キャプションを含めることもできます。
- **カレンダー** – 指定した年や月のカレンダーが自動的に生成されます。
- **用紙セーバ** – 印刷用紙の数を可能な限り減らして写真を印刷します。入力パラメータは写真のサイズと数です。

テンプレート

Zoner Photo Studio には、カテゴリ別にグループ分けされた数十ものテンプレートが用意されています。カテゴリは、簡単なサムネイル シート、カタログ、写真好紙、ベイベー シャワー、結婚式、誕生日パーティ、ドキュメンタリー、掲示板、不動産、自動車など、多岐にわたります。

テンプレートに編集可能なテキストが含まれている場合、テンプレート サムネイルの下のフィールドを編集できるようになります。テンプレートの中には、Zoner Photo Studio の変数テキストを使用して、選択したイメージに関連する情報、または出力ドキュメントのページ数に置き換えることができるものもあります。変数テキストの詳細および編集方法については、「変数テキスト」を参照してください。

カスタム テンプレートと新規テンプレート

カスタム出力テンプレートの作成を希望する場合は、Zoner Draw 4 または Zoner Draw 5 グラフィック エディタを入手することをお勧めします。テンプレートの作成方法、および Zoner Photo Studio への取り込み方法については、http://www.zoner.com/zme/create_templates.asp (英語) を参照してください。

新規テンプレート (たとえば、カレンダーの更新版) は、定期的にインターネットから提供されています。これらの新規テンプレートを入手するには、ウィザードの [カテゴリ] リストの横にある [さらに] リンクをクリックします。

用紙形式の選択

作成するドキュメントの種類として [コンタクト シート]、[カレンダー]、または [用紙セーバ] を選択した場合、次の手順で用紙のレイアウトを設定することになります。事前に定義された形式がニーズに合わない場合は、[カスタム] を選択してその他の値を入力するか、[プリンタからページ サイズおよび余白設定を取得する] ボタンをクリックします。このボタンをクリックすると、用紙サイズを選択するための標準的な設定ダイアログ ボックスが表示されます。また、このオプションでは、用紙周囲の印刷不可能な余白部分も最低限に抑えることができます。

サムネイル シート

サムネイル シートは、行や列の数、およびイメージ間のスペースを指定することで、あらかじめわかっている数の写真を印刷する場合に役立ちます。ヘッダやフッタ、キャプションを含めたり、ページ全体およびイメージの背景色を設定したりすることもできます。

カレンダー

カレンダーを作成する場合は、適切なテンプレートを選択することが重要になります。1 か月、2 か月、3 か月、半年、および 1 年の各種カレンダーの中から好きなものを選択することができます。また、開始月、週の表示方向 (縦向きまたは横向き)、および開始曜日を指定することもできます。

次の手順では、年、月、曜日の各テキストの表示形式を指定したり、アンダーラインや枠線の有無を指定したり、休日をマーキングしたりすることができます。[テキスト プロパティ] ボタンを使用すれば、すべてのテキストに対して、フォント、サイズ、配置、色などのパラメータを設定することができます。

用紙セーバ

このオプションは、印刷対象のイメージの数やサイズがあらかじめわかっていて、印刷用紙の数を最低限に抑えたい場合に便利です。事前に定義されたサイズが適切でない場合は、[カスタム] を選択して、独自の値を指定することができます。次の手順では、イメージのサイズと数を指定します (目的の値を入力して、[追加] をクリックするだけです)。この操作は、値を変更して繰り返すことも可能です。リストからすべての項目を削除するには [すべて削除] をクリックし、選択した項目だけを削除するには [削除] をクリックします。また、項目の内容を変更するには、項目を選択した状態で値を変更し、[変更] をクリックします。

イメージの印刷ジョブまたはエクスポート ジョブへの追加

イメージの追加は、手動または自動で行うことができます。自動で追加した場合、イメージはフォルダ内の現在の順序に基づいてページに配置され、ページの数もイメージの数に合わせて自動的に作成されます。[自動ローテーション] オプションを使用すると、イメージの向きが配置先の枠に一致しない場合に、自動的に 90° 回転して配置されます。[手動] を選択した場合、イメージ枠が空白の状態の出力ページが次の手順に表示されます。このイメージ枠には、左側のリストからイメージをドラッグ アンド ドロップすることができます。ページを追加するには、[ページの追加] ボタンをクリックします。ページを削除するには、[ページの削除] ボタンをクリックします。ページ間を切り替えるには、[<<] と [>>] ボタンをクリックします。

イメージの調整方法には、以下の 3 種類があります。

- **フレーム**—縦横比を維持したままイメージのサイズを調整し、イメージ全体がイメージ枠内に収まるように配置されます。イメージの向きがイメージ枠と一致しない場合は、枠内に空白の領域が残ります。
- **切り取り**—縦横の辺のうち短い辺をイメージ枠に合わせ、長い辺で余分な箇所は切り取られます。
- **変形**—イメージ枠のサイズに合わせてイメージの縦横比を変更し、イメージ全体がイメージ枠内に収まるように配置されます。

配置後のイメージを変形（回転または反転）することもできます。変形は、イメージ枠（赤い長方形）を選択している（イメージが赤い長方形で囲まれている）場合にのみ適用されます。

出力オプション

ページの準備がすべて完了したら、[印刷]、[保存]、[ビットマップとして保存]、[PDF にエクスポート]、[エディタで開く]、[Zoner Draw 5 で開く] の 5 つのオプションが表示されます。これらのオプションの詳細については、以下の説明を参照してください。

印刷設定

印刷する前に、各種印刷設定を行うことができます。印刷設定オプションは、以下の 4 つのタブに分類されています。

- **プリンタ**—このタブでは、使用するプリンタのプリンタ名を選択することができます。プリンタを選択すると、そのプリンタの基本的な情報が下に表示されます。[プロパティ] ボタンをクリックすると、ドキュメントの形式、印刷品質、用紙の種類など、プリンタの設定を変更するためのダイアログ ボックスが表示されます（このダイアログ ボックスに表示される内容は選択したプリンタのドライバによって異なります）。[印刷範囲] のオプションでは、ドキュメント全体を印刷するか、選択したページだけを印刷するか、選択したオブジェクトだけを印刷するかを指定します（最後のオプションは、エディタから印刷する場合にのみ関係します）。[コピー部数] オプションでは、印刷対象範囲の印刷部数を指定します。[ファイルに出力] チェック ボックスをオンにすると、ドキュメントは物理的には印刷されず、その代わりに出力はファイルに保存されます。このオプションは、たとえば、現在コンピュータに接続していないプリンタでファイルを印刷する場合や、Postscript 形式でエクスポートする場合に使用すると便利です。
- **オプション**—[ページに合わせる] チェック ボックスをオンにすると、ドキュメント ページのデータは、イメージの縦横比を維持したまま、実際の出力ページに可能な限り正確に収まるように印刷されます。このオプションは、たとえば、A3 または Legal サイズの用紙に、A4 または Letter (Zoner Photo Studio テンプレートの標準) サイズのドキュメントを印刷する場合に使用します。[ページの中心] チェック ボックスをオンにすると、ドキュメント ページのデータは出力ページの中央に配置されます。[スケール] オプションでは、ドキュメントのデータの出力ページ上での拡大・縮小率 (%) を指定します。[テキストをカーブとして印刷] チェック ボックスをオンにすると、ドキュメント内のすべてのテキストがカーブとして印刷されます。このオプションは、複数のページにまたがるレター印刷をサポートしていないプリンタに対処するためのものです。特に、ビルボード印刷 (Zoner Photo Studio の特別な印刷テクノロジー: 小さい形式の複数のシートを使用して大きい形式を印刷することが可能になる) 時に重要となります。テキストをカーブに変換することで、このようなプリンタでも印刷が可能になります。[印刷品質] オプションでは、グラデーション塗りつぶしと透過性の出力方法を指定します。[透過] を選択した場合にのみ、用紙上の出力は画

面上の表示と同じになります。

- **ワイヤフレーム**—オブジェクトの輪郭のみ。
- **低**—イメージとビットマップの塗りつぶしは網かけで置換され、グラデーション塗りつぶしは 10 ステップまで減少します。
- **良い**—グラデーション塗りつぶしのステップは大幅に減少します。
- **フル**—オブジェクトはパラメータ（透過性を除く）に基づいて正確に印刷されます。
- **透過**—[フル] と同じですが、透過性を含みます。
- **ビルボード印刷**—このタブは、使用するプリンタがサポートしている最大ページ サイズよりも大きいドキュメントを印刷する場合に使用します。Zoner Photo Studio の標準テンプレートは A4 または Letter 形式ですが、Zoner Draw を使用して独自のサイズ（数メートルまで）のテンプレートを作成することができます。ビルボード印刷テクノロジーによって、大きい形式のドキュメントをページ単位で印刷し、その後で結合し直すことが可能になります。このオプションを使用すると、各ページにマーキングが施されるため、ページ間の結合関係が簡単にわかります。店舗の窓に貼るための大きいポスターを作成する場合など、このオプションを使用して印刷すると効果的です。ビルボード印刷を有効にするには、[ビルボード印刷を有効にする] チェック ボックスをオンにします。次に、[切り取りマーク] オプションで、使用する切り取りマークを指定します。デフォルトでは、すべてのページが印刷されるように設定されていますが、特定のページだけを印刷することもできます。その場合、[ページ選択] ボタンをクリックして、ダイアログ ボックス内のページをクリックしてステータスを切り替えます（青い網かけのページは印刷されません）。
- **プリプレス**—このタブでは、印刷するプリプレス マークを選択することができます。プリプレス マークとは、ドキュメントの補足情報、または補助マーク（たとえば、ドキュメントの印刷用紙を切り取るために使用します）です。[CMYK 分割] オプションでは、イメージ セッタのフィルムに出力する場合に使用します。カラー印刷時には、基本色に分割したページを用意する必要があります。分割印刷を行うには、[CMYK 分割] チェック ボックス、および印刷する色のチェック ボックスをオンにします。

ページの保存

ページは ZMP 形式でファイルに保存されます。この形式のファイルはいつでもエディタで開いて編集、印刷、またはエクスポートすることができます。ZMP ファイルには、イメージ自体が保存されるわけではなく、イメージのショートカットが保存されます。そのため、ZMP ファイルで使用されているイメージを移動または削除すると、以後 ZMP ファイルで使用できなくなりますので注意してください。

ページのエクスポート

Zoner Photo Studio では、ウィザードの出力を PDF（標準ドキュメント交換形式）にエクスポートすることができます。PDF はアクセント記号付き文字もサポートしており、無料の Acrobat Reader を使用すれば簡単に読み込めるので、友人に電子アルバムを送信する場合などに役立ちます。また、アルバムと一緒にビューアを送信する手間も省けます。

[PDF にエクスポート] ボタンをクリックすると、PDF ファイルの生成に関係するパラメータを設定するためのダイアログ ボックスが表示されます。

このダイアログ ボックスの設定方法については、「PDF にエクスポート」の説明を参照してください。また、個々の出力ページをビットマップ イメージにエクスポート（変換）することもできます。詳細については、「ビットマップに変換」を参照してください。

出力ページの編集

生成した出力ページは、エディタで ZMP ファイルから読み込んで編集することができます。ZMP ファイルを編集するとき、エディタのツールバーに Zoner Draw でおなじみの基本的な編集ツールが表示されます。

- **白い矢印**—オブジェクトを選択および編集（移動、サイズの変更、回転、歪曲）する場合に使用します。
- **黒い矢印**—オブジェクトの形を変形、特に入力済みのテキストを編集する場合に使用します。
- **T**—新しいテキストを追加する場合に使用します。
- **ページ/矢印**—新しいイメージを追加する場合に使用します。
- **ページ/三角形**—ページ間を切り替える場合使用します。

ここでの編集は、主に最終段階で正確な調整が必要な場合や、独自の補足テキストを追加する場合に効果的です。出力ページのすべての部分を変更できるわけではありません。一部はテンプレート固有のもので変更できません。出力ページは、編集が終了したら保存しておくことができます。

Zoner Draw 5 での出力ページの編集

出力ページは Zoner Draw 5 (Zoner Photo Studio 7 とは別製品) で編集することができます。ただし、Zoner Photo Studio がインストールされていないと、Zoner Draw にアクセスするためのボタンはグレイアウト (無効化) されています。Zoner Draw は Zoner Photo Studio のエディタに比べて複雑ですが、より包括的で高レベルな編集が可能です。Zoner Draw の詳細については、該当するマニュアルまたはオンライン ヘルプを参照してください。

Web ギャラリー

イメージを含む一連の Web ページを作成して、インターネット上で閲覧できるようにすることができます。その場合、ブラウザ ウィンドウで、[公開] メニューの [Web ギャラリーの生成] コマンドをクリックします。ウィザードの最初の手順では、公開するイメージを選択します。2 番目の手順では、基準とするテンプレートの種類を選択します。3 番目の手順では、選択したテンプレートの種類に応じて、テンプレート パラメータを設定します。

テンプレート パラメータの設定グループ (サムネイル ページ、イメージ ページなど) を切り替えるには、[設定の表示] ドロップダウン リストを使用します。

このウィザードの多くのフィールドで、変数テキストを使用することができます。Web ギャラリーの設定は後で読み込むことができるように保存しておくことができます。

プレビュー

ギャラリーの設定を微調整できるように、Web ブラウザでプレビューを表示できるようになっています。ギャラリーのプレビューには、チェックマークを付けたイメージだけが表示されます。イメージの数が少ないほどテンプレートの生成速度が速くなります。そのため、デフォルトで付けられるチェックマークの数も少なく設定されています。

最終調整

すべての設定が終了したら、完成形のページをブラウザで確認することができます。問題がなければ、ギャラリーをフォルダに保存するか、FTP 経由で選択したインターネット アドレスに送信します。

FTP 転送

[公開] メニューの [FTP でアップロード] コマンドを使用すると、ブラウザ ウィンドウでアクティブなフォルダ内のファイルを FTP 経由で Web サーバに転送することができます。この際、サーバのアドレス、ログイン情報、およびプロキシ サーバの設定が必要になります。

電子メールで送信

[公開] メニューの [電子メールで送信] コマンド (Ctrl+Shift+M) を使用すると、ブラウザ ウィンドウで選択したイメージを電子メール プログラムに送信することができます。送信したイメージは自動的に新しいメッセージに添付されます。イメージを電子メール メッセージに添付する前に、いくつかの処理を適用することもできます。

TrueColor イメージは縮小したり、JPEG 形式に変換したりすることができます。[TrueColor イメージの縮小] チェック ボックスをオンにすると、幅と高さが指定のサイズより大きいイメージは自動的に指定のサイズまで縮小されます。指定した値は、両方向の値の大きいほうが基準となります。一方の値が大きすぎる場合は、もう一方の値は縦横比を維持したまま再計算されます。[TrueColor イメージを JPEG に変換] チェック ボックスをオンにすると、JPEG 形式でないイメージは指定の品質レベルで JPEG 形式に変換されます。GIF やその他のパレットベースのイメージには、

この機能は適用されません。

また、選択したすべてのファイルを指定の圧縮レベルで ZIP 圧縮することもできます。[イメージを ZIP 圧縮] チェック ボックスをオンにすると、すべてのファイルが指定の名前および圧縮レベルで 1 つの ZIP ファイルに圧縮されます。

最後の [サイズ警告] チェック ボックスをオンにすると、指定の添付サイズを超えると警告メッセージが表示されるようになります。警告メッセージが表示された場合、それを無視してファイルを添付することも、ダイアログ ボックスに戻ってこの設定を変更することもできます。

イメージ CD への書き込み

Zoner Photo Studio には CD バーナーとしての機能も備わっており、イメージを CD (または DVD) に直接書き込むことができます。まず、CD に書き込む写真を選択 (ハイライト) し、ブラウザ ウィンドウの [公開] メニューで [イメージ CD への書き込み] をクリックします。最初の手順では、CD に無料配布のビューア (Zoner Photo Studio Viewer) を含めるかどうか、およびそのビューアの起動時に表示する内容を設定します。このビューアは、CD をドライブに挿入したときに自動的に起動されます。ビューアが起動した後でも、その表示内容を変更することができます。

次の手順では、CD に書き込むデータの量を確認して、[書き込み]、[CD の内容を保存]、[ISO ファイルに保存] のいずれかから CD への書き込み方法を指定します。

書き込み

[書き込み] ボタンを使用すると、CD または DVD への書き込み処理が実際に開始します。CD/DVD ドライブ、書き込み速度 (デフォルトでは、可能な限り最大限の速度が使用されます)、ラベル、およびバッファ アンダーランに対処するテクノロジーを利用するかどうかを指定します。このテクノロジーは、BURNProof、JustLink、Power-Burn、SafeBurn、Seamless Link などの商標の下で宣伝されているものです。商標名はともかく、このテクノロジーによって、CD へのデータの転送速度が書き込み速度に追いつかない場合でも書き込み処理が失敗することはなくなります。

あとは、メディアを挿入して、[書き込み] ボタンをクリックするだけです。Zoner Photo Studio では、CD-RW や DVD-RW のような書き換え可能メディアを自動的に検出し、データを消去するかどうかをユーザに確認するようになっています。書き込みが完了したら、メディアはドライブから取り出されます。

書き込み処理は、Zoner Photo Studio の CD 編集内から実行することもできます。CD 編集は、アルバムのようなもので、編集したり、複数の書き込みセッションで使用したりすることができます。

CD の内容を保存

Zoner Photo Studio から直接 CD への書き込みを行えない場合 (または行いたくない場合)、対象のデータをすべてディスク上の指定フォルダに保存しておき、後で自分の好みのプログラムを使用して CD に書き込むことができます。

ISO ファイルに保存

別の方法として、ISO ファイルを準備しておくことができます。このファイルには CD または DVD への書き込みに必要なすべての情報が含まれ、標準的な ISO ファイル (ISO 9660 規格) をサポートしている環境であればどの環境でも使用することができます。

ビデオ CD への書き込み

Zoner Photo Studio では、卓上 DVD プレイヤーで読み込めるように、イメージをビデオ CD に書き込むことができます。ビデオ CD に書き込めるイメージの数は (その他のプログラムとは違って) 100 枚を超えます。イメージをビデオ CD に書き込むには、ブラウザ ウィンドウで対象のイメージを選択して、[公開] メニューの [ビデオ CD への書き込み] をクリックします。

[索引ページを生成] チェック ボックスをオンにすると、複数のページで構成されるビデオ CD メニューを生成するこ

とができます。このメニューには、必要に応じて、タイトル、サムネイル、ナビゲーション、キャプションを追加することができます。キャプションに含めるイメージの情報には変数テキストを使用することができます。出力結果の表示をプレビューするには、[プレビュー] ボタンをクリックするか、[自動プレビュー] チェック ボックスをオンにします。すべての設定が終了したら、[書込み] ボタンをクリックして、書き込みオプションを設定します。詳細については、前述の「書込み」を参照してください。

スライドショーの表示

スライドショーを表示するには、ブラウザ ウィンドウで [公開] メニューの [スライドショー] コマンド (F3) をクリックします。代わりに、[公開] メニューの [高度なスライドショー] コマンド (Ctrl+F3) をクリックすると、スライドショーの設定をカスタマイズすることができます。スライドショーは、アルファベット順ではなく、フォルダまたはアルバムで設定した並べ替え順序で表示され、現在選択しているイメージから始まります。また、ブラウザ ウィンドウで、イメージ上をマウスのホイール ボタン (利用可能な場合) でクリックしても、そのイメージから始まるスライドショーを表示することができます。

[スライドショー] ダイアログ ボックス ([公開] → [高度なスライドショー]) の [表示] タブでは、スライドショーに含めるファイルの種類、およびファイルの切り替え方法 (自動または手動) を設定します。スライドショーに音声ファイルやビデオ ファイルを含めた場合、それらのファイルもスライドショーで再生されます。コンピュータに複数のモニタを接続している場合は、スライドショーを表示するモニタを指定することができます。

[オプション] タブでは、スライドショーの表示中の動作に関するその他のオプションを設定します。[サムネイル パネルを表示] チェック ボックスをオンにすると、画面上部にサムネイルで構成される “クイック ナビゲーション” パネルが表示されます。[スクリーンセーバをブロックする] チェック ボックスをオンにすると、スライドショーがスクリーンセーバの影響を受けなくなります。[イメージに保存されたサウンドを再生する] チェック ボックスをオンにすると、音声ファイルにオーディオ ノートが割り当てられている場合、ファイルが表示されたときにそのノートが再生されるようになります。

[ヘッダとフッタ] タブでは、ヘッダとフッタの表示/非表示を切り替えることができます。ヘッダまたはフッタを表示する場合、その内容は変数テキストを使用して定義することができます。[効果] タブでは、ファイルの切り替え時の効果を設定します。

スライドショーの表示中に写真を 90° 回転、コピー、移動、または削除することもできます。その場合、スライドショーの表示中に写真を右クリックして、コンテキスト メニューで該当するコマンドをクリックします。このコンテキスト メニューからは、ブローアウトやヒストグラムを表示することもできます。また、現在表示しているイメージの [イメージ情報] ダイアログ ボックスを表示することもできます。

スライドショーの設定は、保存しておいて、後で再利用することができます。その場合、[スライドショー] ダイアログ ボックスの下部のオプションを使用します。

壁紙

壁紙とは、Windows デスクトップの背景として表示するイメージです。ブラウザ ウィンドウで選択した壁紙に設定するには、[公開] メニューの [壁紙] サブメニューの各コマンド (3 種類のモードが利用可能) を使用します。壁紙を解除するには、[消去] コマンドを使用します。

プログラムのユーザ設定

プログラムのユーザ設定を行うダイアログ ボックスを開くには、[設定] ボタン (Zoner Photo Studio タイトル バーの歯車形のボタン) をクリックし、[ユーザ設定] (Ctrl+M) をクリックします。ダイアログ ボックスの左側には各種設定のカテゴリが表示されます。カテゴリを選択すると、右側に該当する設定オプションが表示されます。左下の [デフォルト] ボタンをクリックすると、選択したカテゴリの設定オプションをデフォルトの状態に戻すことができます。

一般

Zoner Photo Studio の全体的な見た目を設定するには、[スキン] オプションを使用します。イメージの保存時にデフォルトで使用する JPEG 圧縮レベルを設定するには、[デフォルト JPEG 圧縮] オプションを使用します。イメージが可逆 JPEG 変換に適切でない場合の動作を設定するには、[切り取り] または [低品質で続行する] のいずれかのオプションを選択します。[切り取り] オプションでは、可逆変換を可能にするためにイメージの一部を切り取ります。[低品質で続行する] オプションでは、イメージの一部は切り取らずに、不可逆変換を実行します。デジタル カメラから切り取りまたはサイズ変更を行わずに写真を取り込んだ場合は、イメージの一部を切り取らなくても、ブラウザ ウィンドウで常に可逆変換を実行することができます。

自動プレビューを扱うダイアログ ボックスで、値を変更してから自動プレビューが表示されるまでの時間を指定するには、[編集ダイアログに自動プレビューを表示までの待機時間] オプションを使用します。高い値を指定しておけば、数値を入力し始めて、入力し終わる前に自動プレビューが表示されてしまうという現象を避けることができます。[イメージ情報] ダイアログ ボックスの [オーディオ ノート] セクションで [編集] ボタンをクリックしたときに起動するアプリケーションを指定するには、[サウンド エディタ] オプションを使用します。

エディタとブラウザ ウィンドウのステータス バーに表示する情報を変更するには、[ステータス バー情報] オプションを使用します。このオプションでは変数テキストを使用できます（一部の变数テキストはデフォルトで使用されています）。カメラまたは同種のデバイスをコンピュータに接続したときに、Zoner Photo Studio の写真取り込みダイアログ ボックスを自動的に起動するかどうかを指定するには、[デバイスがオンラインになったら、“”ディスク デバイスから取得”” 機能呼び出す] オプションを使用します。EXIF 情報に方向属性を持つイメージを、その情報に基づいて、エディタおよびスライドショーで自動的に回転するには、[EXIF 方向フラグに一致するようにイメージを自動的に回転する] オプションを使用します。

表示

このカテゴリでは、ブラウザ ウィンドウに表示するファイルの種類（拡張子）を指定することができます。Zoner Photo Studio でサポートされているすべてのファイルを表示することも、特定の種類のファイルだけを表示することもできます。

また、一般的なファイルの種類（ビットマップ、ベクタ、ビデオ、サウンド）別にハイライトして表示することもできます。ナビゲータ ウィンドウと同じように、ブラウザ ウィンドウにフォルダを表示するには、[ブラウザにフォルダを表示する] オプションを使用します。

サムネイル

このカテゴリでは、ブラウザ ウィンドウの表示モードが [サムネイル]（デフォルト）になっているときのサムネイルの表示形式を設定することができます。Zoner Photo Studio では、イメージのサムネイルをキャッシュ ファイルに格納します。このキャッシュ ファイルの場所を指定するには、[サムネイルを格納するキャッシュ ファイルの場所] オプションを使用します。キャッシュ ファイルの最大サイズを設定するには、[最大キャッシュ サイズ] オプションを使用します。サムネイルのキャッシュは、[キャッシュ消去] ボタンを使用してクリアすることができます。サムネイルをクリアすると、最初からサムネイルが作成されるようになります。キャッシュのサイズが大きくなり、そのほとんどが今後あまり見る予定のないイメージのものであれば、キャッシュをクリアすると便利です。[サムネイル サイズ] には、5 種類の事前設定値と [カスタム] オプションが用意されています。[カスタム] オプションでは、最大で 250 × 250 ピクセルまでのサイズを自由に設定することができます。サムネイルのキャッシュのサイズを縮小するには、[サムネイルに JPEG 圧縮を使用する] オプションを使用します。ただし、このオプションを使用すると、ブラウザ ウィンドウでの処理速度が少し遅くなります。JPEG 圧縮を使用する場合、[品質] レベルを指定する必要があります。Zoner Photo Studio での表示速度を向上させるには、[EXIF サムネイルを読む] オプションを使用します。各イメージのサムネイル内に、そのイメージを開くために関連付けられたプログラムのアイコンを表示するには、[サムネイル内に関連プログラムのアイコンを表示] オプションを使用します。

サムネイル表示方法

ブラウザ ウィンドウには、サムネイルと一緒に各種イメージ情報を表示することができます。

これらの情報は、サムネイルの下に実際に表示することも、ツールチップとして表示することもできます。表示する情報の種類は、変数テキストを使用して定義します。変数テキストの詳細については、後述の「変数テキスト」を参照してください。

エディタ

このカテゴリでは、エディタの見た目や動作（たとえば、エディタの背景色）を設定することができます。イメージを表示すると、ここで設定したズーム レベルに合わせて自動的にサイズが拡大・縮小されます。縮尺比が 100% でない場合、画面上でのサイズの変更方法は、[ビットマップの表示品質] オプションで選択した設定値によって変わります。[低] を選択した場合、表示速度は速くなりますが、品質が低下します。たいていの目的では、[通常] で十分です。[高] を選択した場合、写真の品質面では最も優れた結果を得られますが、処理能力が大幅に低下します。イメージを開いたときに使用するズーム レベルを設定するには、[デフォルト ズーム] オプションを使用します。ツールバーのデフォルトの位置（縦方向か横方向）を切り替えるには、[ツールバー位置] オプションを使用します。

エディタで [名前を付けて保存] コマンドを使用したときの動作を指定するには、[“名前を付けて保存” コマンドについて] オプションを使用します。このオプションでは、前回 [名前を付けて保存] コマンドを使用したときにイメージを保存したフォルダ、または現在開いているイメージ（一度も保存したことのないイメージを編集している場合は対象外です）が含まれるフォルダのいずれかを開くように設定できます。

このカテゴリの最後のオプションでは、[戻す] コマンドに関連するメモリ管理パラメータを設定することができます。[最低戻し可能数] で設定した戻し回数は、[最大メモリ] の値を超えても動作が保証されます。[最大メモリ] には、コンピュータの全体的な物理メモリのうちどれだけ [戻す] コマンドのサポートに割り振るかをパーセンテージで設定します。

フォルダ

このカテゴリでは、Zoner Photo Studio で使用するフォルダのパスを設定することができます。最初のオプションは [画像] です。ナビゲータ ウィンドウの表示モードを [画像] に切り替えたときにこのパスのデータが表示されます。なお、このパスはプログラムを初めて起動したときに設定することもできます。デフォルトでは、Windows の [マイ ピクチャ] フォルダ ([マイ ドキュメント] フォルダのサブフォルダ) に設定されています。

2 番目のオプションは [ZPS フォルダ] です。このパスには、Zoner Photo Studio で使用するいくつかの特別なサブフォルダがあります。具体的には、[アルバム]、[CD 編集]、[メディア アーカイブ]、[検索結果] フォルダです。デフォルトでは、[マイ ドキュメント] フォルダの直下に設定されています。

インテグレーション

このカテゴリでは、Zoner Photo Studio を Microsoft Windows 環境に統合したときの動作を設定することができます。ファイル拡張子の横のチェック ボックスをオンにして [OK] をクリックすると、それらのファイルを Zoner Photo Studio に関連付けることができます。つまり、Windows エクスプローラでファイルをダブルクリックしたときに、Zoner Editor が開くようになります。また、Zoner Editor 上で Enter キーを押すと、Zoner Photo Studio 全体が起動します。[Zoner Photo Studio を Windows に統合] チェック ボックスをオンにすると、[Zoner Photo Studio] と [Zoner Editor] の 2 つのメニューが、Windows でファイルを右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューに追加されます。これら 2 つのメニューをクリックすると、Zoner Photo Studio または Zoner Editor を簡単に起動することができます。

色管理

入出力デバイスの色プロファイルを制御するには、[色管理を使う] チェック ボックスをオンにします。適切に構成されたシステムで色管理機能を使用すると、モニタでの表示、および印刷の両面において、より実際に近い色を実現することができます。

[Print Image Matching と EXIF Print を使う] チェック ボックスをオンにすると、Print Image Matching II (PIM) と EXIF Print による拡張イメージ情報をサポートするようになります。近代のカメラでは、写真の撮影方法や撮影状況が細かく記録されるようになっています。Zoner Photo Studio では、これらの情報に基づいて、ユーザが手を加えなくてもイメージが最適な状態で見えるように自動調整されます。この機能を Print Image Matching 規格に準拠したプリンタと一緒に使用することで、印刷時に高品質・高画質な色の再現が可能になります。

[イメージの色領域] オプションでは、割り当てられた色領域でイメージを処理するか、読み込み時にカスタム色領域に変換するかを指定します。

[作業色領域] オプションでは、CMYK および RGB からの変換中に使用するデフォルトの色領域を設定します (作業色領域への自動変換がオンになっている場合)。

デバイス プロファイル

- モニタ 画面表示時の色プロファイル
- プリンタ 印刷時の色プロファイル
- カメラ [取得] メニューの [ディスク デバイスから] コマンドを使用して読み込まれたイメージに自動的に適用する色プロファイル
- スキャナ [取得] メニューの [TWAIN デバイスから] コマンドを使用して読み込まれたイメージに自動的に適用する色プロファイル

プロファイルを選択していない場合

- プリンタ Windows で選択したプロファイルが使用されます。
- スキャナとカメラ プロファイルは割り当てられません。
- モニタ sRGB が使用されます。

CMYK イメージ プロファイル

[デフォルト入力プロファイル] オプションでは、色プロファイルを持たないイメージを CMYK から RGB に変換する際に使用する色プロファイルを指定します。[なし] を選択した場合、古いプログラムと互換性のあるモードが使用されます。[出力プロファイル] オプションでは、CMYK イメージの対象の色プロファイルを指定します。[なし] を選択した場合、古いプログラムと互換性のあるモードが使用されます。

Zoner Photo Studio では、CMYK イメージを読み込んで、色プロファイルを使用することはできますが、この場合、Adobe Photoshop と 100% の互換性があるわけではありません。したがって、Adobe Photoshop にイメージを転送する際は、RGB を使用することをお勧めします。

情報

デジタル カメラや同種のデバイスの多くは、各イメージ ファイル内に EXIF (Exchangeable Image File Format) メタデータを保存します。EXIF データは、ズーム レベル、フラッシュ、感度、露出時間、シャッター速度など、写真撮影時のさまざまなパラメータを表します。平均して 20 種類の情報が保存されます。別のメタデータの形式として IPTC があります。この形式は、Adobe アプリケーションなどで使用されてきたもので、Zoner Photo Studio 7 でも対応しています。Zoner Photo Studio では、情報を EXIF から読み込むか、それとも IPTC から読み込むか、また、EXIF または IPTC、あるいはその両方にデータを書き込むかどうかを指定することができます。

この点について、プログラムの動作を設定するには、[プライマリ データソース] オプションを使用します。もう 1 つのオプション [EXIF メーカー ノートを維持する] では、カメラの製造元固有の形式 (メーカー ノート) および Adobe

XML データ内の EXIF データの扱い方を設定します。

RAW フォーマット

このカテゴリには、RAW フォーマットの処理に関するオプションが用意されています。Canon RAW ファイルを開く際に Canon 独自のライブラリを使用するかどうかを指定するには、[Canon ライブラリを使って CRW ファイルをデコードする] オプションを使用します。Canon ライブラリを使用しない場合は、その他の RAW ファイルと同じように、dcraw ライブラリが使用されます。RAW イメージに JPEG プレビューが含まれる場合、[フル解像度イメージの代わりにプレビューを表示する] オプションを使用すると、RAW イメージの表示速度が向上します（フル解像度よりも低い解像度で読み込むことができます）。RAW ファイルをフル解像度で表示し直すには、エディタの [ファイル] メニューで [フル解像度で再読み込み] をクリックします。

RAW ファイルの中には、TIF 拡張子で保存されるものもあります。このような RAW ファイルを扱うには、[TIF 拡張子の RAW ファイルを検出する] オプションを使用します。ただし、このオプションを使用すると、TIF ファイルの読み込みにいくらか時間がかかるようになります。

[高品質保存] と [自動ホワイト バランス] の 2 つのオプションは、dcraw ライブラリに関する設定です。これらのオプションを使用すると、読み込み速度は低下しますが、写真の品質を高めることができます。

RAW フォーマットの詳細については、「RAW フォーマット」を参照してください。

ヘルパ プログラム

各ファイル形式には、ヘルパ プログラムを割り当てることができます。

それには、まず [追加] ボタンを使用してヘルパ プログラムのリストを作成し、次に目的のファイル形式（拡張子）を選択して [割り当て] ボタンをクリックします。ヘルパ プログラムとして登録しておくと、ブラウザ ウィンドウでファイルを右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューからそのプログラムを簡単に起動することができるようになります。

証明書設定

このカテゴリには、コンピュータにインストールされている署名証明書が表示されます。ここで選択した証明書は、写真を署名する際に自動的に使用されるようになります。[証明書が取り消されていないことを確認] オプションを使用するには、インターネット接続が必要になります。オンラインで作業する機会が少ない場合は、このオプションはオフにしておくことが賢明です。証明書階層全体の確認を行わない場合は、[署名証明書の取り消しのみを確認] オプションを使用します。

その他

このカテゴリには、Zoner Photo Studio でのその他のオプション（たとえば、ファイル処理に関するオプション）が用意されています。CD からファイルをコピーするときに読み取り専用の属性を解除するには、[CD からコピーする場合に “読み取り専用” 属性を解除する] オプションを使用します。コピーや移動などの処理で 1 分以上かかる場合に、その処理が完了したら音で知らせるには、[時間のかかる処理の終了時に音で知らせる] オプションを使用します。

キーワード リストからカスタム キーワードをすべて削除し、デフォルトのリストに戻すには、[デフォルト キーワードの設定] ボタンを使用します。イメージ自体から直接既知のキーワードのリストを更新するには、[キーワードのスキャン] コマンド ([管理] → [データ インポート/エクスポート]) を使用します。“次回からメッセージを表示しない” ようにするための機能を有効にしたものも含め、すべての警告メッセージを再び表示するように設定するには、[警告メッセージのレストア] ボタンを使用します。

イメージを自動的に低解像度で開くことで、読み込み時間を向上させるには、[イメージの高速読み込み（低品質）] の 2 つのオプションを使用します。これらのオプションは、スライドショー、プレビュー ウィンドウ、およびメディア アー

カイブの生成時にのみ適用されます。

カメラで選択した露出値、つまりそれ以降カメラで使用していた露出値を表示するには、[Canon イメージでは、実際の値の代わりに Canon カメラの露出値を表示する] オプションを使用します。これらの値は、通常、標準的な露出値とは若干異なります。

設定内容の保存、読み込み、復元

Zoner Photo Studio には、ダイアログ ボックス、フィルタ、および全体的な環境において、豊富な設定オプションが備わっています。これらの設定内容はすべて Windows レジストリに格納されます。システム全体を再インストールしたり、ハード ディスクが壊れた場合、これらの設定内容は失われます。したがって、このような場合にいつでも復元できるように、全体的な環境の設定内容を保存し、コンピュータの外にアーカイブとして保管しておくことが賢明です。設定内容を保存するには、Zoner Photo Studio のメイン ウィンドウで [設定] ボタン (歯車形のボタン) をクリックし、[設定の保存] コマンドをクリックします。[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されるので、Zoner Photo Studio の設定内容を含むファイルの保存先を指定します。保存した設定内容は、[設定の読み込み] コマンドを使用していつでも読み込むことができます。Zoner Photo Studio のカスタム設定をすべて削除するには、[デフォルト設定] コマンドを使用します。[デフォルト設定] コマンドを使用すると、Zoner Photo Studio を初めてインストールして起動したときの設定に戻ります。設定内容を読み込んだり、デフォルトの設定に戻った場合は、Zoner Photo Studio を再起動する必要があります。

設定内容は特別な “ini” ファイルとして保存されるので、HTML (Web) ギャラリーにエクスポートするためのプリセットに対して、これらの機能が影響を及ぼすことはありません。

ツールバーのカスタマイズ

エディタとブラウザ ウィンドウには、ツールバーが用意されています。これらのツールバーは、自由にカスタマイズすることができます。ツールバーの任意の場所を右クリックすると、[デフォルト] と [編集] の 2 つのコマンドを含むコンテキスト メニューが表示されます。[デフォルト] コマンドを使用すると、ツールバーをデフォルトの状態に戻すことができます。[編集] コマンドを使用すると、[ツールバーのカスタマイズ] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスでは、必要に応じて、ツールバー上のボタンを調整することができます。左側のリストは現在未使用のボタン、右側のリストは現在使用中のボタンを示します。ツールバーにボタンを追加するには、左側のリストから目的のボタンを選択し、右側のリストで挿入先の位置を指定して、[追加] ボタンをクリックします。新しいボタンが、右側のリストで選択した位置に挿入されます。ボタンの削除も同様に行えます。ボタンの現在の配置を変更するには、目的のボタンを選択して、[上へ] と [下へ] の 2 つのボタンを使用して移動します。または、ボタンを選択して、目的の位置にドラッグ アンド ドロップしても移動することができます。なお、[ツールバーのカスタマイズ] ダイアログ ボックスは、[設定]、[ツールバーのカスタマイズ]、[ブラウザ] または [エディタ] の順にクリックしても表示することができます。

モニタの補正

[設定] ボタンの [モニタ補正] コマンドを使用すると、[モニタ補正] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスには、モニタを正確に補正できるように、バランスの取れた色のイメージ、および白黒のグラデーション ボックスが用意されています。色管理のオプションをオンにしている場合、モニタに対して選択した色プロファイルが補正イメージに適用されます。モニタの補正方法の詳細については、ダイアログ ボックス内の指示を参照してください。

変数テキスト

変数テキストとは、Zoner Photo Studio によって判別されるフォーマット指定テキストで、特定のイメージのプロパティに対応しています。Zoner Photo Studio には、変数テキスト、通常のテキスト、またはその両方を入力するフィールドが多数含まれています。Zoner Photo Studio では、これらのフィールドで変数テキストを“プレースホルダ”として扱い、実際のテキストに置き換えるために使用します。プレースホルダは、以下に示すように、波カッコで囲んだ上で正確に記述する必要があります。

たとえば、次のように指定すると、 `{PATH}{NAME}.{EXT}` サイズ: {W} x {H}
実際は特定のイメージの情報に置き換えられます。 `E:¥Photos¥Photo.JPG` サイズ: 1209 x 984

ここで、{PATH} はファイルのパス（この例では、“E:¥Photos¥”）、{NAME} はファイル名（“Photo”）、“.” はそのまま維持されるテキスト、{EXT} はファイルの拡張子（“JPG”）、“サイズ” はそのまま維持されるテキスト、{W} と {H} はそれぞれイメージの幅と高さを示します。

Zoner Photo Studio では、変数テキストを以下のような場合に使用します。

1. エディタとブラウザ ウィンドウのステータス バーの設定
2. 高度なスライドショーのヘッダとフッタの設定
3. Web ギャラリーで使用するテキストの設定
4. テンプレートでの印刷とエクスポート
5. テキストのオーバーレイ
6. ファイル リストの生成
7. ビデオ CD で使用するメニューの作成

各プレースホルダの説明

プレースホルダ

{I}	説明 イメージの位置
{IC}	イメージの合計数
{PAGE}	イメージを含むページ番号
{PAGES}	合計ページ数
{TIME}	現在の時刻（たとえば、ギャラリーの生成を開始した時刻）
{DATE}	現在の日付

{NAME}	ファイル名
{EXT}	ファイルの拡張子
{PATH}	ファイルのパス
{FT}	ファイルの種類
{FS}	ファイルのサイズ
{TC}、{PT}	作成日、撮影日
{TM}、{TA}	最終更新日、最終アクセス日

{W}	幅
{H}	高さ
{BPP}	1 ピクセルあたりのビット数
{IS}	イメージのサイズ（データの量）

{C}	圧縮
{CM}	カラー モデル
{DPI}	DPI
{OA_MEDIUMNAME}	CD/DVD 名
{OA_MEDIUMSERIALNUMBER}	CD/DVD 番号
{A}	作成者
{T}	タイトル
{K}	キーワード
{D}	説明
{AUD}	オーディオ ノート
{FLASH}	フラッシュ
{ET}	露出時間
{F}	F 番号
{FL}	焦点長
{ISO}	ISO
{CAM_MAXAPERTURE}	最大絞り値
{CAM_FOCALLENGTH35MM}	焦点長 (EQ 35 mm)
{CAM_DIGITALZOOM}	デジタル ズーム
{CAM_EXPOSITIONADJUSTMENT}	露出バイアス
{CAM_EXPOSUREMETERINGMODE}	測光モード
{CAM_EXPOSUREMODE}	露出モード
{CAM_WHITEBALANCE}	ホワイト バランス
{CAM_MODEPSMA}	露出プログラム
{CAM_ORIENTATION}	カメラの方向
{CAM_SHARPNESS}	鮮明さ
{CAM_CONTRAST}	コントラスト
{CAM_SATURATION}	彩度
{CAM_GAINCONTROL}	ゲイン制御
{CAM_PHOTOENHANCEMENT}	写真拡張
{CAM_SCENECAPTURETYPE}	撮影シーンのタイプ
{CAM_LIGHTSOURCE}	光源
{CAM_CAMHWMAKER}	カメラの製造元
{CAM_CAMHWMODEL}	カメラのモデル
{CAM_CAMERASW}	ソフトウェア
{CAM_COLORPROFILE}	イメージの色プロファイルの名前 (存在する場合)
{CAM_FLASHDETAILED}	フラッシュ (詳細)
{CAM_FOCALLENGTHRANGE}	レンズの焦点長の範囲
{CAM_FOCUSMODE}	カメラの焦点モード (自動または手動)
{CAM_FIRMWARE}	ファームウェアのバージョン
{CAM_CAMERASERIALNUMBER}	カメラのシリアル番号
{CAM_CAMERAOWNER}	カメラの所有者
{IMG_PICTURERATING}	画像レート
{IMG_ISSIGNED}	デジタル証明書 (はい/いいえ)

フィールドに関連する変数テキストは、フィールドの横の右向き三角形のボタンからいつでも利用することができます。このボタンをクリックすると、変数テキストを指定するためのダイアログ ボックスが表示されます。利用可能なプレースホルダのリストは、ダイアログ ボックスの左側に含まれています。目的のプレースホルダを選択して [追加] ボタンをクリックすると、そのプレースホルダがカーソルの位置に追加されます。追加されるプレースホルダのフォーマットは、[記述子を含む]、[セパレータ]、[時刻と日付フォーマット]、[大文字/小文字] の各設定によって若干異なります。これらの設定の詳細については、以下の説明を参照してください。もちろん、操作に慣れてくれば、このダイアログ ボックスを使用しなくても、変数テキストを直接記述してもかまいません。

修飾子 #S がプレースホルダに含まれており、その後実際に値がある別のプレースホルダが続いている場合、出力テキストにはセパレータ（デフォルトでは、コンマ+スペース）が追加されます。たとえば、{NAME#S}[D] と指定すると、説明がある場合は“ファイル名, 説明”と表示され、説明がない場合は単に“ファイル名”（“ファイル名, ”ではない）と表示されます。デフォルトのセパレータ以外を使用するには、[セパレータ] ボックスの値を変更するか、手動で記述します（たとえば、{NAME#S:“;”}）。

ほとんどのプレースホルダで記述子があらかじめ定義されています。たとえば、{NAME} の場合、“名前”です。これらの記述子は、フィールド名の後に #P を含めると、自動的に追加されます。たとえば、プレースホルダ {NAME#P} を指定すると、出力テキストは“名前 <ファイル名>”となります。

セパレータ マークと同様に、記述子マークも EXIF フィールドを聡明に取り扱います。つまり、フィールドの値が空の場合は、記述子は追加されません。

あらかじめ定義された記述子テキストが希望のフォーマットではない場合は、独自に定義することも可能です。たとえば、{NAME#P:“My name: ”} のように定義します。

プレースホルダのその他の拡張フォーマット

{FS} および {IS} の拡張フォーマット

{FS}	自動
{FS#FM:A}	自動
{FS#FM:B}	バイト
{FS#FM:K}	キロバイト
{FS#FM:M}	メガバイト
{FS#FM:G}	ギガバイト
{FS#FM:A-}	自動（単位なし）
{FS#FM:B-}	バイト（単位なし）
{FS#FM:K-}	キロバイト（単位なし）
{FS#FM:M-}	メガバイト（単位なし）
{FS#FM:G-}	ギガバイト（単位なし）

{IID_KEYWORDS} の内部セパレータの変更

{K#IS:“;”}	カスタム内部セパレータ（デフォルトは “,”）
------------------	-------------------------

大文字/小文字

{NAME}	デフォルト
{NAME#C:U}	すべて大文字
{NAME#C:L}	すべて小文字
{NAME#C:C}	各単語の先頭文字だけ大文字

日付と時刻のフォーマット

これらの出力フォーマットは、Windows の地域と言語のオプションの設定によって異なります。以下の例では、Windows XP 日本語版の出荷時の設定を想定しています。

{TC#F:S}	短いフォーマット（2005/07/11 17:18）
{TC#F:L}	長いフォーマット（2005年7月11日 17:18:39） — デフォルト
{TC#FD:S/L}	日付のみ（短/長）

{TC#FT:S/L}.....時刻のみ（短/長）
 {TC#FT:"独自のフォーマット"}

h.....12 時間時計の時間（先頭にゼロなし）
 hh.....12 時間時計の時間（先頭にゼロあり）
 H.....24 時間時計の時間（先頭にゼロなし）
 HH.....24 時間時計の時間（先頭にゼロあり）
 m.....分（先頭にゼロなし）
 mm.....分（先頭にゼロあり）
 s.....秒（先頭にゼロなし）
 ss.....秒（先頭にゼロあり）
 tt.....午前/午後のテキスト

{TC#FD:"独自のフォーマット"}

d.....日（先頭にゼロなし）
 dd.....日（先頭にゼロあり）
 ddd.....曜日の省略形（月～金）
 dddd.....曜日の完全形（月曜日～金曜日）
 M.....月（先頭にゼロなし）
 MM.....月（先頭にゼロあり）
 MMM.....月の省略形（1～12）－ 日本語では、M を指定した場合と同じ
 MMMM.....月の完全形（1月～12月）
 y.....下 2 桁の年（先頭にゼロなし）
 yy.....下 2 桁の年（先頭にゼロあり）
 yyyy.....4 桁の年

Web ギャラリーの生成時に使用するテキストの指定には注意が必要です。つまり、情報のソースとして元のファイルを使用するか、出力ファイルを使用するかによって指定方法が異なります。プレースホルダを大文字で入力した場合、ディスク上の元のイメージが情報のソースとして使用されます。プレースホルダを小文字で入力した場合、Web に配置するイメージがソースとして使用されます。

修飾子は、たとえば {NAME#C:U#P} のように、一緒につなげることができます。なお、指定したプレースホルダがコンテキスト内で意味を成さない場合、そのプレースホルダは無視されます。

キーボード ショートカット

全般

Ctrl+M	オプション
Alt+0-9	作業領域の切り替え
F1	ヘルプ
F5	リフレッシュ
F8	ナビゲータ モードの切り替え
F9	プレビュー/情報/ヒストグラムの切り替え
Alt+C	フォルダへのコピー
Alt+M	フォルダへの移動
Ctrl+Delete	ファイルの削除*
Ctrl+Shift+Delete	ファイルの削除（ごみ箱をスキップ）*
F2	名前の変更

基本的なイメージ編集

Ctrl+L	左方向に回転
Ctrl+R	右方向に回転
Ctrl+Shift+R	角度を指定して回転
Ctrl+Shift+W	値を指定して切り取り
Ctrl+E	イメージのサイズ変更
Shift+E	詳細なサイズ変更
Ctrl+Shift+T	イメージのオーバーレイ
Ctrl+T	テキストのオーバーレイ
Ctrl+Shift+B	キャンバスと枠

高度なイメージ編集

Shift+L	レベル
Ctrl+1	色の編集
Ctrl+2	色温度の編集
Ctrl+3	露出拡張
Ctrl+4	イメージの複合編集 (イメージの拡張)
Ctrl+5	アンシャープ マスクを使用した鮮明さ向上
Ctrl+6	鮮明さ/ぼかしの調整
Ctrl+7	影の強調
Ctrl+Shift+N	ノイズの除去
Ctrl+Shift+A	色収差の除去
Ctrl+Shift+D	樽型/糸巻型歪曲収差の修正
Ctrl+Shift+V	アンチビネット
Ctrl+Shift+L	インターレースの解除
Ctrl+G	グレースケールへの変換

ブラウザ ウィンドウのみ

Backspace	1 つ上のフォルダへ
Esc	選択解除
Num *	選択項目の反転
Num /	高度な選択
Ctrl+A	すべて選択
Ctrl+I	選択項目の反転
Ctrl+F	検索
Ctrl+P	印刷とエクスポート
F3	スライドショー
Ctrl+F3	高度なスライドショー
F6	フォルダの新規作成
F7	アルバムの新規作成
Ctrl+Shift+P	オーディオ ノートの再生
Ctrl+Shift+S	再生中のオーディオ ノートの停止
Ctrl+Shift+M	電子メールで送信
Ctrl+Shift+F	ファイル形式の変換
Shift+Enter	イメージ情報
Alt+Enter	ファイル プロパティ
Enter	エディタで開く
Ctrl+Enter	新しいエディタで開く
Ctrl+Shift+C	イメージ自体をクリップボードにコピー

Ctrl+K	EXIF バッチ編集
Ctrl+Shift+Q	名前のバッチ変更
Ctrl+Q	ファイルのバッチ変換

ブラウザ ウィンドウからエディタを開く操作

Alt+Shift+C	切り取り
Alt+Shift+H	水平レベルの調整
Alt+Shift+K	共線性の編集
Alt+Shift+V	遠近感の編集
Alt+Shift+R	赤目除去
Alt+Shift+S	クローン スタンプ

エディタのみ

Ctrl+O	ファイルを開く
Ctrl+S	ファイルの保存
Ctrl+Shift+S	名前を付けて保存
Ctrl+Shift+I	インポート — ZMP (印刷/エクスポート出力) ファイルのみ
Ctrl+Shift+E	PDF へのエクスポート
Z	ズーム*
P	パン
C	切り取り*
H	水平レベルの調整*
K	共線性の編集*
V	遠近感の編集*
R	赤目除去*
S	クローン スタンプ*
M	長方形選択
L	投げ縄*
G	多角形投げ縄*
W	魔法の杖 (自動選択)*
Ctrl+A	切り取り縦横比を維持したまま、その縦横比に一致する最大領域を選択 (縦横比は反転しない)
Shift+A	切り取り縦横比を維持したまま、その縦横比に一致する最大領域を選択 (必要に応じて、縦横比を反転する)
Shift+Enter	イメージ情報の表示
Enter	ブラウザ ウィンドウへの切り替え
Esc	エディタを閉じる (領域を選択している場合は、まずその選択が解除されます)
Ctrl+F	フルスクリーン モード
矢印キー	イメージのパン (表示領域の調整)
スペースバー	一時パン モード*
Ctrl+スペースバー	一時ズーム モード*
Tab	ズーム ツールと切り取りツールの切り替え
1	10% ズーム*
2	25% ズーム*
3	50% ズーム*
4	100% ズーム*
5	200% ズーム*
6	400% ズーム*
7	800% ズーム*
8	1600% ズーム*

Num +	拡大*
Num -	縮小*
Num 0	画面合わせ*
Num *	100% ズーム*
F11	前のページ
F12	次のページ
Home	最初のファイル*
End	最後のファイル*
Page Up	前のファイル*
Page Down	次のファイル*
Shift+O	ブローアウトの表示
Shift+P	印刷前のプレビュー
Ctrl+H	ヒストグラム
Ctrl+Z	戻す
Ctrl+Y	やり直し
Shift+Z	最後の操作を戻す

エディタ — 選択と切り取り

矢印キー	選択範囲/切り取り枠の移動
Ctrl + 矢印キー	選択範囲/切り取り枠の高速移動
Shift + 矢印キー	選択範囲/切り取り枠の範囲変更

エディタ — テキスト ツールがアクティブになっている場合（出力ファイルの編集）*

Ctrl+B	太字
Ctrl+I	斜体
Ctrl+A	すべて選択
Ctrl+D	選択したオブジェクトを複製

*明白な理由で、これらのショートカットは、テキスト編集時、およびベクタ エディタの同種のモードでは動作しません。

エディタ — マウスのホイール ボタン

- 回転 次のイメージに進む/前のイメージに戻る
- クリック フルスクリーン モード
- Ctrl + 回転 イメージの垂直方向へのパン（表示範囲の調整）
- Shift + 回転 イメージの水平方向へのパン（表示範囲の調整）
- Ctrl+Shift+ 回転 ズーム レベルの変更

サポートしているファイル形式

Zoner Photo Studio では、以下のファイル形式をサポートしています。

ビットマップ形式

- PSD—Adobe Photoshop イメージ
- JPEG—ファイル交換形式
- GIF—Compuserve イメージ交換形式
- TIFF—タグ付きイメージ ファイル形式
- PNG—ポータブル ネットワーク グラフィックス
- PCD — Kodak Photo CD
- BMP — Windows ビットマップ

PCX — ZSoft イメージ ファイル
TGA — TrueVision Targa
ICO — Windows アイコン
RLE — Windows ビットマップ
MAC — Mac Paint
WPG — WordPerfect グラフィックス (ビットマップ)
DIB — Windows ビットマップ
BMI — Zoner ビットマップ
PSP — Paint Shop Pro
CRW — Canon RAW
MRW — Minolta RAW
NEF — Nikon RAW
ORF — Olympus RAW
RAW — その他の RAW フォーマット
THM — JPEG サムネイル

ベクトル形式

WMF — Windows メタファイル
EMF — 拡張メタファイル
ZBR — Zebra pro Windows (Zoner が開発した最も古いイメージ エディタの形式)
ZMF — Zoner のイメージ エディタ Zoner Draw 4 の形式

ZCL — Zoner Draw 3 のクリップアート形式
ZMP — Zoner Photo Studio 印刷テンプレート (イメージへのショートカットを含み、イメージ自体は含まれませ
ん)

マルチメディア形式

FLI、FLC — アニメーション

コンピュータに DirectX がインストールされている場合は、以下のファイル形式もサポートしています。

ビデオ ファイル — ASF、AVI、M1V、MOV、MPE、MPEG、MPG、QT、WMV

音声ファイル — AIF、AIFF、AU、MID、MIDI、MP2、MP3、MPA、RMI、SND、WAV、WMA

DirectX の詳細については、<http://www.microsoft.com/japan/windows/directx/default.mspx> を参照してください。

サポートしている Canon カメラ

完全サポート - データの取り込みおよび RAW 処理 (可能な場合)

- PowerShot A10、A20、A30、A40、A60、A70、A80
- PowerShot A100、A200、A300
- PowerShot S10、S20、S30、S40、S45、S50
- DIGITAL IXUS、IXUS v、IXUS v2、IXUS v3、IXUS 300、IXUS 330、IXUS 400、IXUS II、IXUS i
- PowerShot G1、G2、G3、G5
- PowerShot Pro90 IS
- EOS-1D、EOS-1Ds、EOS D30、EOS D60、EOS 10D、EOS 300D

部分サポート – RAW 処理のみ

- EOS-1D Mark II
- EOS 20D
- EOS 350D

トラブルシューティング

Zoner Photo Studio の使用上、何らかの問題が発生した場合は、まずプログラムの最新のビルドを使用しているかどうか確認してください。ビルドとはプログラムの“サブバージョン”であり、プログラムのリリース後見つかった問題の修正が含まれます。最新のビルドを使用していない場合は、無料でダウンロードしてインストールすることができます。ビルドがパッチとして提供されている場合、新しいパッチには以前のすべてのパッチが含まれます。なお、使用しているプログラムのビルド番号は、[Help] メニューの [About] をクリックすると表示されます。

最新のビルド番号は、Zoner Web サイトの「サポート (Support)」セクションに掲載されています。最新のビルドを使用しても同じ問題が発生する場合は、<http://www.zoner.com/support> の「よくある質問 (Frequently Asked Questions)」リストを確認してください。このリストには、今まで報告されている問題とその回答が掲載されています。

それでも解決しない場合は、以下のテクニカル サポートまでご連絡ください。

support@zoner.com

contact@nextEDGEtech.com (日本国内)

連絡先

Zoner, Inc., 98 Georgetown Dr., Dallas, GA, 30132

電子メール:info@zoner.com

<http://www.zoner.com>、<http://www.zoner.com/zps>

日本国内

株式会社ネクステッジ テクノロジー

電子メール:contact@nextEDGEtech.com

<http://www.nextEDGEtech.com>、<http://www.shareEDGE.com>

著作権

Zoner Photo Studio 7 – ユーザ ガイド

改訂第 2 版

本ユーザ ガイドは、個人利用の目的以外で、Zoner の許可なく無断で印刷することは禁止されています。本ユーザ ガイドおよび印刷コピーは著作権によって保護されており、有償・無償を問わず、第三者に無断で配布することはできません。

本ドキュメントのいかなる情報も、著作権所有者の書面による事前の許可なく、電子的またはその他いかなる手段に

よっても複製することは禁止されています。

本ユーザ ガイドの内容はいかなる保証も伴わず提供されるものであり、予告なしに変更される場合があります。Zoner は、本ユーザ ガイドの記述内容に誤りがあった場合でも、いかなる責任も負わないものとします。

ソフトウェア:© 1994—2005 ZONER Software

ドキュメント:© 1994—2005 ZONER Software

イラスト:© 1994—2005 ZONER Software

All rights reserved.

Zoner、Zoner Draw、および Zoner Photo Studio は Zoner の商標です。Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。その他の名称は各社の商標または登録商標である可能性があります。

JPEG インポート/エクスポート フィルタ Copyright © 1991–2000, Thomas G. Lane Copyright © 1991–1998, Independent JPEG Group

PNG インポート/エクスポート フィルタ Copyright © 1998–2002 Glenn Randers-Pehrson

TIFF インポート/エクスポート フィルタ Copyright © 1988–1997 Sam Leffler Copyright © 1991–1997 Silicon Graphics, Inc.

ZLIB 圧縮/解凍ライブラリ Copyright © 1995–2000 Jean-Loup Gailly, Mark Adler

minizip 0.15 Copyright © 1998 Gilles Vollant

Regex ライブラリ Copyright © 1998–2000, Dr John Maddock

Intel® Image Processing Library Copyright © 1997–2000, Intel Corporation. All Rights Reserved

SpiderMonkey JavaScript Engine

MJPEG Tools 1.6.1 は GNU GPL ライセンスに従って開発されました。GNU GPL の詳細については、Zoner Software までお問い合わせください。

開発顧問: Prof. RNDr. Miloslav Druckmüller, CSc.

日本語ローカリゼーション: ネクステッジ テクノロジー

本製品は PRINT Image Matching II をサポートしています。PRINT Image Matching II 対応のデジタル カメラ、プリンタ、およびソフトウェアと組み合わせて使用すると、より目的にかなったイメージを生成することが可能です。

PRINT Image Matching II. Copyright Seiko Epson Corporation 2002. All Rights Reserved.

PRINT Image Matching は Seiko Epson Corporation の商標です。

PRINT Image Matching のロゴは Seiko Epson Corporation の商標です。